



ちぎり絵「星空のペガサス」(2019) 荒木聖憲

令和元年度熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業報告書

社会福祉法人 愛隣園

アール・ブリュット パートナーズ熊本

目次

はじめに	1
1. 地域の現状と課題、めざす成果	2
2. 事業報告（パワーポイント版）	3
3. 事業実績報告書（熊本県所定様式）	9
4. 展覧会を通して	
「生の芸術Art Brut 展覧会 vol.5 を通して」	
アール・ブリュット パートナース熊本 会長 西島 喜義	20
「展覧会に感じること」	
熊本県立美術館 参事 石丸美穂子	
5. 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.5 出展作家紹介	23
インディペンデントキュレーター 真武真喜子	
熊本日日新聞社 岩下 勉	
6. 相談支援の概要	36
7. 作品取り扱い覚書	39
8. 展覧会、移動美術館、来観者の感想録（抜粋）	40
9. 感想から見えてくるもの（寄稿）	53
「アール・ブリュットは魔法の鏡か」	
アール・ブリュット パートナース熊本 副会長 安達 憲政	
「衝動の理由」	
熊本日日新聞社 デジタル編集部 次長 岩下 勉	
10. アール・ブリュット パートナース熊本・社会福祉法人愛隣園 事業事務局	55

はじめに

かねてより障害のある人々らの芸術活動支援に、ご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。この度、令和元年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業(美術分野)報告書を作成しましたので、ご一読頂ければ幸いに存じます。

本年度、県立美術館本館での生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.5 には、2,025 名の来場者をお迎えし、ご来場の滋賀県立近代美術館長より、アール・ブリュットが知られていること、多くの人々の支援や連携を感じるとのお言葉を頂きました。

その他、各種団体の要請により、熊本県立劇場、熊本城ホール、熊本テルサでの展示や、サニーサイドアトリエ SUN、第二つつじヶ丘学園ギャラリー小手毬での移動美術館も、おかげ様で好評のうちに終了することができました。

また、震災復興に取り組むまちづくり団体と連携の下、レプリカ作品をサンロード新市街に展示し、まちを元気にする取り組みが実現しました。

新しい試みも始まりました。これまで3年間、展覧会を担当頂くキュレーターの依頼で、北九州のギャラリーにて、熊本の作品を展示(KUMA BRUT)。さらに、県内の NPO 団体との協力で、プロ作家とのコラボと一部販売を行いました。

作品に心を打たれ、作家のパートナーとして支援を続けたいと始めた活動ですが、新しい作家との出会いや、松本さん、藤岡さんらの海外等での活躍も喜びに、支援の輪が広がるにつれ私たちの想いもまた新たになってきております。

これからも、皆様にご指導を賜りながら、障害者芸術活動の振興に努めたいと存じます。どうぞよろしく願い申し上げます。

社会福祉法人 愛隣園
アール・ブリュット パートナース熊本

1. 地域の現状と課題、めざす成果

熊本県では、①特別支援学校や障害者支援施設、精神科病院単位とその関係団体での発表の場、②くまもとハートウィーク実行委員会主催の「くまもと障がい者芸術展」のような全員参加の芸術展、③芸術活動市民団体が主催、専門家のキュレーティングで行う「生の芸術 ArtBrut 展覧会」等を催し、創作者の裾野を広げると共に、創作意欲の向上が生まれている。

発表の機会が、作家の発掘と人材の育成につながり始めているものの、①教育分野、福祉分野、芸術分野をつなぐコーディネート人材は限られている、②芸術活動支援にかかる時間（人手）と費用の確保の難しさは課題であると考える。

本年度も、私達のコーディネート機能への期待に添えるよう継続して、①障害のある作家・家族、事業所等の身近な相談支援機能の充実、②障害者支援施設、支援学校等、支援者の人材の育成と作家の発掘などの事業を実施することにより、次のような効果を目指したい。

①障害のある人々と家族・支援者のエンパワメント。②作品を通して、障害のある人の特有の力と比類のない個性が目に見え、地域住民に対する障害の正しい理解、差別解消へとつながること。③“うちの地域（学校・施設）のアーティスト”と認知されることにより、周りの応援が生まれ、作家の誇り、生きやすさにつながる。④芸術活動支援は、作家の表現と過程を大切にしていくので、特別支援学校や福祉施設における「支援の質の向上」、ならびに、「個別支援の浸透と支援の連続性」が深まること。

県内全域の障害者関係団体、教育機関、地域住民等と丁寧連携して事業を進め、障害のある人々の自立支援・社会貢献を推進し、障害のある人々らが主体となる新しい芸術文化の振興と、地域共生社会の実現に向かうことを目標とする。

アール・ブリュット パートナース 熊本

令和元年度 実績報告



駒田幸之介《無題》/2018

1. 展覧会の実施

(1)「生の芸術 Art Brut 展覧会vol.5」の開催

10月8日～20日 熊本県立美術館 本館

総来場者数 2,025名 アンケート回答数 748件

オープニングセレモニー 109名

ギャラリーツアー: インディペンデントキュレーター 真武真喜子 氏

実演(作家ライブ): 延19回



オープニングセレモニー



作家自身による説明



10.9 熊本日日新聞

1. 展覧会の実施



作家実演 (荒木氏、駒田氏、山本氏)



ギャラリーツアーの様子

県内26名の作家。約110点を展示
beyond2020認証事業

2. 連携事業 (アール・ブリュット移動美術館)

- ① 4月5日 児童通所支援事業所スパームーン (開所式)
- ② 6月2日～9日 熊本県立劇場 モール (オハイエくまもと10周年記念)
- ③ 7月27日 熊本中心市街地 サロード`新市街 (まちなかゆかた祭り)
- ④ 8月1日～14日 熊本県庁地下通路



4.5 スーパームーン



6.2～9 熊本県立劇場



7.27 サロード`新市街

2. 連携事業 (アール・ブリュット移動美術館)

- ⑤ 11月9日～11月14日 サニーサイド 「アトリエSUN」
(秋祭りに合わせて)
- ⑥ 11月23日～11月24日 熊本城ホール
(手をつなぐ育成会全国大会)
- ⑦ 12月4日～12月9日 第二つつじヶ丘学園
「ギャラリー小手毬」
- ⑧ 1月18日 ホテル熊本テルサ
(熊本県人権同和政策課、人権フェスティバル)



11.9～14 アトリエSUN



11.23～11.24 熊本城ホール



12.4～9 ギャラリー小手毬

2. 連携事業

- ① KUMA BRUT!!～熊本からのアール・ブリュット～
11月16日～12月8日 Operation Table(北九州)
- ② 「心を形に」展 (展示一部販売)
12月11日～12月15日 熊本県伝統工芸館



11.16～12.8 Operation Table



12.11～15 熊本県伝統工芸館

3. 講演の実施

- 実践報告(5.31)県民交流館パレア
「芸術活動支援の取り組み」
野々島学園 土井 章平 氏
しょうぶの里 村上理優子 氏



- 熊本市障がい者サポーター研修会(8.30)welパル熊本
「アール・ブリュット 生の芸術 ～作品と一人ひとりの物語～」
アール・ブリュット パートナーズ熊本
事務局長 三浦貴子



7

4. 研修・人材育成

1. 厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業全国会議
(東京:8/22、2/26)
2. 厚労省事業 九州ブロック会議 (福岡:8/29、熊本:2/20)
3. 生の芸術ArtBrut展覧会vol.5 準備・運営・撤収(10/8-20)
4. 移動美術館 準備・運営・撤収(アトリエSUN,ギャラリー小手毬)
5. おおいた障がい者芸術文化センター開所式 (大分:11/10)
6. Operation Table トーク「なんだかわからないけど、気にな
ってしょうがないもの」(北九州:12/7)
7. 日本博九州ブロック実行委員会 (長崎:1/28)
8. 日本博グランドオープニング (滋賀:2/7)
9. 厚労省事業 九州ブロック ワークショップ (熊本2/21)

8

5. 調査・発掘

1. 作家・作品訪問調査 70件
2. 情報提供による作家発掘 10件（累積登録71名）



初選出作家

植田氏



菅原氏



立尾氏

9

6. 相談支援

1. 連絡調整件数
情報提供、連絡、日程調整 メール 312件
電話 約300件
会員メール(情報発信 46件) その他
2. 相談件数 83件（作家・家族・支援者 等）
芸術活動に関すること
展覧会・移動美術館に関すること
著作権に関すること

10

7. ネットワークづくり

ア 会員の拡充

一般会員 124名 法人会員 20団体

イ 他の団体等との連携

熊本県、熊本市、熊本県(市)手をつなぐ育成会
熊本県障害者スポーツ文化協会、熊本善意銀行
ひのくに知的障害児者生活サポート協会、熊本県立美術館
熊本日日新聞社、くまもと・まち魅力向上協議会
(社福)愛火の会、友朋会、つつじヶ丘学園、NPOひまわり
Operation Table、東光社、トライ
九州障害者アートサポートセンター
厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 採択団体

8. 評価・発信

• ウェブサイト

本事業に関する記事の投稿数 24件

アクセス数 3,020件



• TV放送 2回、新聞掲載 3回



10.16 NHK「クマロク」



7.14 熊本日日新聞

3. 事業実績報告書（熊本県所定様式）

1. 事業実績の概要

①相談支援：これまで6年間続けてきた芸術活動支援の経験とネットワークに基づき、「障害者芸術文化活動支援センター@熊本」では、通年で83件の相談に個別対応した。

②人材育成：芸術活動支援に取り組む県内事業所の事例を報告する機会を設け、報告者には外部からの評価、参加者には新たな視点を獲得する機会となった。このことにより、県内の芸術活動支援者の情報共有とスキルアップを図った。

③連携：これまでの事業の継続で活動の認知度が高まり、外部団体（オハイエくまもと、くまもと・まち魅力向上協議会、手をつなぐ育成会、（福）友朋会、（福）つつじヶ丘学園、NPO創作ひまわり、Operation Table、熊本県人権同和政策課）からの協力依頼を受け、展示等を行った。

④展示実績・発信：作家・支援者をはじめとする多団体との連携の下、展覧会vol.5を開催した。ラグビーワールドカップの影響で、国外からの来館も多かった。展覧会期間中には作家ライブを行い、来場者がより高い満足感を感じたとの感想が見られた。熊本県立美術館本館での「展覧会」と、熊本城ホールをはじめ10箇所で開催した「移動美術館」等を通して、5,000人を超える来館者に作品の魅力を発信し、作家へのメッセージが880件寄せられた。

2. 事業により得られた成果及び今後の成果の活用方法

① 「多分野かつ広域ネットワークの活用」

これまで事業で築いてきたネットワークに、専門分野の広がり、本会と連携して事業を進める動きが現われ、本会の認知度と活用方法が広がっている実感を持たれた。また、連携事業を行う中で活動の幅が広がり、作品販売に関する試みや、県外（北九州）での展示を実施することができた。さらに、報道を始め、作家家族と活動支援者の中には、講演等で積極的に本活動について紹介してくれる人もあり、広報・周知が進んでいる。この動きを次年度につなげたい。

② 「専門性と個別性を重視した相談支援の継続」

より身近な相談支援機関を目指し、作家・家族からの個別相談に取り組んでいる。また、行政・福祉事業所等からの相談も増えてきているため、作品の価値や作家の権利を守ることの必要性・重要性を、利用要請者側に説明することを心掛け、作家の利益となるような支援を続けていく。そして、作家の心身のコンディションや環境が一定ではない事を前提に、専門性と個別性の高い相談支援を大切にしたい。

③ 「作家の自立支援と作品の保護」

これまで同様に、作家の支援を安定して行うことに加え、専門家との連携をより密にし、作家と専門家をつなぐ役割を果たしながら、作家の自立と作品の保護を進める。また、引き続きネットワークを生かした作家の発掘を行い、県内の作家が、芸術活動を通して、生きがいのある生活と社会参加を実現できるように取り組んでいきたい。

④ 「支援モデル “熊本方式” の推進」

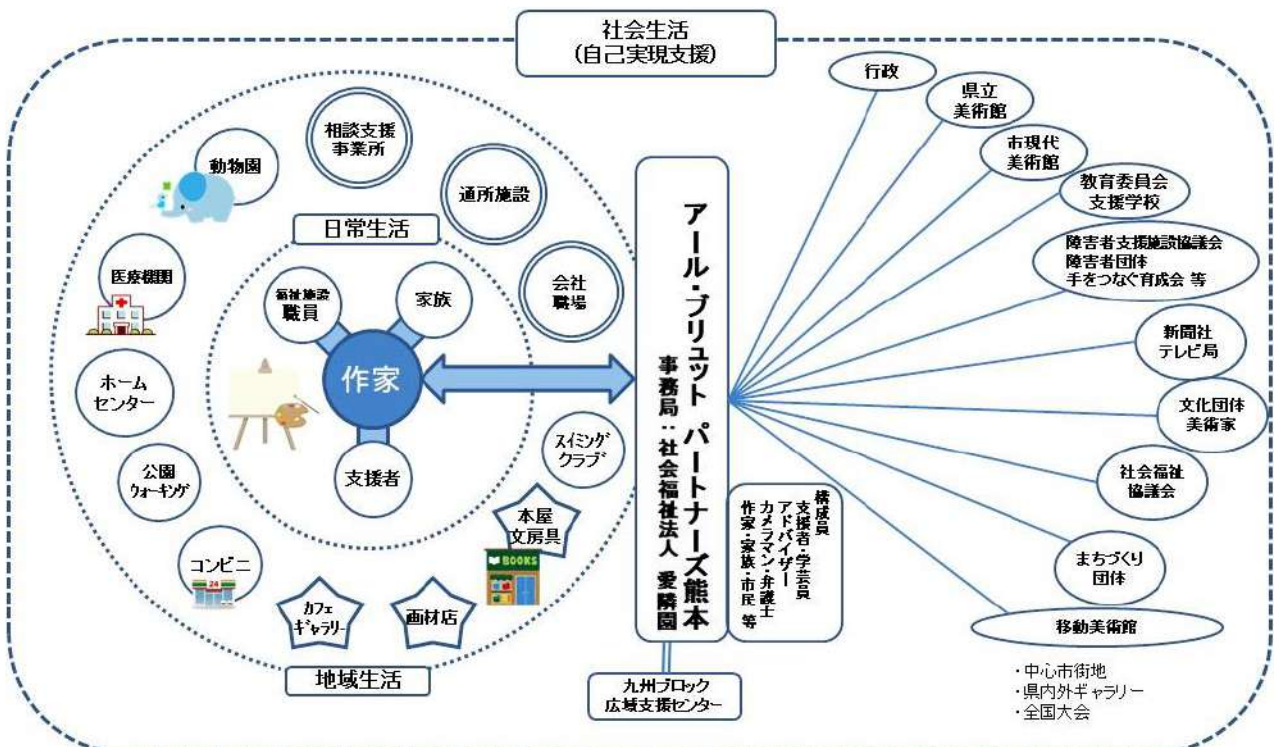
芸術作品としての評価を求め、作家が表現活動を行う日常生活、地域生活を支える人々と、多くの関係機関（社会）との橋渡しの役割を、市民団体の核となる支援センターが担うモデル “熊本方式” を推進していく。

昨年度と本年度は、未成年の作家も選出されたため、その関係者らが一気に熱を帯び、支援の輪が広がった。学校関係者から、未成年作家の推薦も増えており、創作ジャンル、年齢、障害分野において幅広く作家が発掘されてきている。これまで推薦を躊躇していた人も、展覧会を見て、同年代、近いジャンルの作家が選出されていることを知ることで、支援センターに紹介する自然な流れが出来てきている。

今後も、多様な資源のネットワークを活かして地域の作家を育むプロセス「芸術でつながる地域共生社会」づくりを推進する。より多くの県民が参加し、作品への感動が共生社会を静かに築いていく事業を、私たちの地域熊本で続けていきたい。

地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」2019

☆「熊本方式」とは、作家を中心に、福祉、教育、芸術、企業、行政等が市民団体として連携し、地域に根ざして、障害者芸術活動を振興していくモデルです。作家の家族等も輪に加わり、互いに刺激しあい高めあって行く(交互作用)を目指しています。作家の自立・社会参加と共に、芸術でつながる地域共生社会が目標です。



3. 県内における事業所等に対する相談支援

「障害者芸術文化活動支援センター@熊本」の認知度の高まりとともに増えている個別具体的な相談を、専門家と連携し対応した。また、これまで同様に電話相談に加え訪問相談を行い、より身近な相談支援を心掛けた。

今年は、作家・家族のニーズの変化や不安要素に対して、センター職員が時間をかけて傾聴することなど、福祉の専門性も重要であることを再認識した。

次に、相談内容が多様化し、芸術活動を通して収入を得たい、というニーズの高まりを受けて、試験的に展示販売会を実施した。連絡調整や代理発送、書類の作成等のノウハウを蓄積した。

そして、作家・家族・支援者からの要望を受け、個展開催時の情報提供や助言、準備・撤収の協力、取材協力・取材場所提供等の個別支援にも応じ、信頼関係の構築と、作家一人ひとりに光があたり、困りごとを解決できるように支援した。

4. 芸術文化活動を支援する人材の育成

①県内の芸術活動支援に力を入れている事業所に、普段の取り組みについて報告してもらい機会を設け、取り組みへの想い、方法等を参加者で共有した。②10月開催の「生の芸術Art Brut展覧会vol.5」には、行政、関係団体、福祉事業所、学生等に呼びかけ、述べ83名のスタッフで設営、受付、撤収等の運営を行い、OJTで展示、運営の技術を学び合った。③キュレーター真武真喜子氏のギャラリートツアーは、参加者に障害のある人々らが創作した作品の見方を伝え、その価値の根拠について学んだ。④他団体と連携して事業を進めてきたことで、ネットワークが強化されたことに加え、連絡調整や他団体との交流を通して事務局スタッフのスキルアップを図った。⑤熊本市障がい者サポーター研修会で芸術活動支援について講演を行い、作家に焦点を当てた内容は、参加者に芸術活動支援の周知に加え、より一層の興味を深めるものとなった。

5. 関係者のネットワークづくり

支援のネットワークは、少しずつ確実に広がっている。このネットワークにより、「移動美術館」は広範囲、多様な連携での開催へと進化している。年度途中で強いオファーがあり、当初予定していた会場以外にも展示を行っている。また連携を基に、作品の展示販売という新たな形態を試すことができ、作家の自己実現につながり、芸術活動支援の幅が広がった。

昨年度に引き続き、熊本市の中心市街地の祭りに合わせて同会場で行った展示は、関係者や興味のある人たちが中心の展覧会等の来場者とは異なり、老若男女問わず、通りすがりの県民が障害のある人々らの芸術に触れる機会となった。

また、手をつなぐ育成会からの要請により、全国大会に合わせて正式開館前の熊本城ホールで展示を行った。県外からのお客様2,000名に加え、基調講演でご来場の小山薫堂氏にも、熊本の作品を見て頂き「作家の熊本」をアピールできた。

6. 発表の機会の創出

3年連続となる、県立美術館本館で開催の「生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.5」(12日間、2,025名)では、沢山の方にご来場頂き、海外からの観光客の姿も1割程度見られた。

また、展示要請が拡がり、児童通所支援事業所の開所式、中心市街地展示、菊池や人吉の事業所付帯のアトリエやギャラリー、手をつなぐ育成会の全国大会に合わせた熊本城ホール、北九州のギャラリーOperation Table、NPOと連携して県伝統工芸館、人権フェスティバル等で展示を行った。

その中でも、Operation Tableと県伝統工芸館では、作品販売につながる取り組みの一つとして、展示販売を試みた。購入希望者には、原画の売買に仲介し、作家の経済的自立への支援と作品保護支援を行った。年間を通して、令和元年度の展示は12ヶ所、展示日数は50日間である。

7. 情報収集・発信

会員ネットワークやホームページ上で情報の収集、発信を行っている。また、展覧会場に設置しているアンケートに作家情報提供欄を設け、新たな作家情報を収集する方法で、本年度は新たに10名の作家を発掘した。ホームページや会員ネットワークで展覧会等の情報を収集するとともに、情報発信の場としても活用し、46件の情報発信を行った。

展覧会、移動美術館前にはプレスリリースを行い、新聞で関連記事が3回、テレビ（KKT、NHK）で2回取り上げられ、多くの人の関心が高まり、来場者の増加につながった。

8. 成果のとりまとめ

事業報告をまとめた冊子を作成し、関係機関に配布する。また、ホームページ上にも報告書データをアップロードし、幅広い人たちが閲覧し、芸術活動支援が普及するように努める。

展覧会場等で来場者に記入してもらったアンケート内容は、一覧にして作家・支援者に届けることで、社会からの励ましが、新たな創作意欲と社会とのコミュニケーションへとつながった。

ある作家は、時々スマホで寄せられたアンケートの言葉を読み返し、嬉しくて涙が出てくると伝えてくれた。アンケート結果の満足度が93%の展覧会だったので、発表の機会として成功だったと考える。

③年間スケジュール（研修や展示会等の実績を記載）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人材育成		事例 報告 会 (31)				障がい 者サポ ーター 研修会 (30)	ギャラ リーツ アー (8) 観覧ツ アー (9)		Operat ion Table トーク 参加 (7)		日本博 グラン ドオー プニン グ展 (7) 製品化 WS 参加 (21)	
発表等の 機会の創出	移動 美術 館 (5)		移動美 術館 (2～ 9)	まちな か美術 館 (27)	移動美 術館 (1～ 14)		生の芸 術 Art Brut 展覧会 vol.5 (8～ 20)	移動美 術館 (9～ 14) (23～ 24)	移動美 術館 (4～ 9)	移動美 術館 (18) 個展開 催協力 (27)		
調査	調査 活動	調査 活動	調査活 動	キュレ ーター による 調査 (11～ 12)	調査活 動		県内調 査(7 ～8)		調査活 動	調査活 動		
その他		理事 会 (31)			全国会 議 (22)	ブロッ ク会議 (29) 企画会 議 (17)		KUMA BRUT!! (16～ 12/8)	心を形 に展 (11～ 15)	取材対 応協力 (29)	ブロッ ク会議 (20) 全国会 議 (26)	理事 会 (4)

本事業に関わる第三者評価について

評価方法

①アンケート：展覧会、移動美術館開催時に、来場者アンケートを行い、作品への評価と、事業の効果を観察した。また、②県内意見交換：作家・家族、施設・学校等の支援者、アール・ブリュット パートナーズ熊本関係者（県市行政を含む）と意見交換を行った。③県外意見交換：芸術文化活動普及支援の全国連絡会議、九州ブロック連絡会議等で意見交換を行った。

評価

① 展覧会アンケートより

（県立美術館748件、アトリエSUN89件、ギャラリー小手毬43件）

○描くこと自体が喜びであるということが伝わってくる。人に見せよう、よく見せようという意識を超えているところがすばらしい。

○作家各々の強烈ながら繊細な個性。作品を通じて会話をした様な気持ちになりました。

○独創的な表現で、作者がコミュニケーションしており、感動しました。鑑賞する私達に強く、印象を残してくれました。

○皆さんそれぞれの方に個性があり、色使い等学ばせて頂くことが多く感激しました。一層の発展を願っています。

○ダイナミックなものから細かすぎる物まで圧倒されました。来て良かったです。

○すごい！高名な画家が修行の先に全ての色や線をはぶいた境地に至った時のような絵や抽象画のような絵、くすっと笑える絵、どの作品も言葉は不要。ひきつける魅力に満ちている。

○独りよがりでない特徴ある緻密さと配色が、コトバを介さない人と人との“感覚”のやりとりにつながっている感じがしました。

- 作品はさまざまながら「衝動」というものが、にじんできくようで、きっとそれが絵、作品たちの魂なんだろうと感じました。情熱とも言えるのかな。作者の手を離れて作品そのものが息をしているようなすごみがありました。とても素敵でした。また新たな作品も拝見したいです。
- 静かな画面からは制作の大変さを感じられませんが、どれ程の時間と体力と情熱を傾けられたことでしょうか。それらが見る者の心に静かに深くしみみます。
- 何かしら居心地のいい世界でした。
- 解説の中にあつた「生そのものの熱量」をどの作品にも感じました。表現したいというエネルギーは全ての人間が持って生まれたものであり、多くの人は社会のいろんな束縛でそれが失われている中で、会場の作家の皆さんはそんな束縛から全く自由に表現の翼を広げていることに感動しました。
- 友人と花火大会に行き、今日はフラッと熊本城へ立ち寄りしました。美術館にもフラッと立ち寄りしましたが、感動致しました。来たことに感謝です。陰ながら応援させていただきます。（器用さに圧倒されました。）
- 豊かな世界が広がっていて、心温める時間でした。表現の自由は愛だなと感じました。

海外からの来場者の感想

- Very fainting showcase of the talent of the group of artists personally.
アーティストグループの才能を、個人毎に非常に巧妙に展示しています。
- Very talented artists.We wish them have a brighter future, both for their live and for their creation. 「がんばれ」
非常に才能のあるアーティストの方々です。皆さんの人生と創造共により輝く未来が訪れるよう祈ります。
- Excellent image to promote diversity in archives.
アーカイブの多様性を促進する優れたイメージ
- Great!! Keep it up.
すばらしいです!!

- The painting is very beautiful.This Painters are courageous. I Like this exhibition.
絵がとても美しいです。作家さん達は勇敢です。この展覧会が好きです。
- Nice atmosphere,plenty of space,nice music and great art.
素敵な雰囲気（環境）、空間のゆとり、良い音楽と素晴らしいアート！
- ART IS GOOD FOR SOUL AND SPIRIT.
ART IS HEALING OF EVIL ,OF SUFFERING
ART IS TRANSCENDING
アートは魂と精神に良いものだ。
アートは悪と苦しみからの癒しだ。
アートは超越している。
- Very unusual & different
非常に珍しく、特徴的だ。
- I thought all of the artists did on excellent job. The colors and designs were all wonderful.
私はすべてのアーティストが素晴らしい仕事をしたと思いました。色とデザインはすべて素晴らしかった。
- Very impressive collection. Much variety.
非常に印象的なコレクション。とても多様性がある。
- Colourful pictures make me left energetic nice drawing and art pieces.
カラフルな作品は私をエネルギーに満ちた表現や芸術作品の一部にしました。
- Appreciate to organizer to hold exhibition for that people who we think are "abnormal" however I perceive them to be talented create artist.
私たちが、アブノーマルと思う人々のために、展覧会を開催している運営者に感謝申し上げます。しかしながら、私は彼らが才能のあるアーティストであると感じています。
- Lot' s of Fun!
とても楽しい
- Drawing is very great and help them share the inside world thank you ,for everything.
作品は非常に素晴らしく、彼らが内部の世界を分かち合う力になっています。すべてにありがとう。
- Your native.wishing,vivid. I thought my kids love. He is not frishorted . Usually he is wearing there is a link to him.
自然体、願い、鮮やかさ。私は子供たちが大好きだと思った。彼は気が短くない。普通に彼はつながりを持っている。

② 県内の方々との意見交換より

- 育成会関係者より「全国大会熊本大会では展示によって花を添えてもらった。親も作家も誇らしげで、作家としての成長も見られるようだ。」
- 大学関係者より「展覧会場で作品を見た人の反応がすごくピュアだった。これからも協力していきたい。」
- 展示に協力頂いた美術館スタッフより「他の美術館スタッフも毎年アール・ブリュット展を楽しみにしている。スクールミュージアム（巡回）でも、アール・ブリュット作品を紹介するとすごく喜ばれる。」
- まちづくり団体関係者より「昨年から続くまちなかでの協力イベントを継続していきたい、好評である。」
- 新聞記者より「関係者の活動に対する想いを感じた。作家にも小中学生が増えてきたことはいいことだと思う。」
- 企業の経営者より「作品が素晴らしい。何か一緒にできることはないかと考えている」

③ 県外の方々との意見交換より

- 展覧会の会場作りに協力の福岡のインスタレーションアーティストより「オープニングセレモニーと会場で、作家や支援者の誇らしそうな姿を見て、何故この活動を続けているのかが分かった気がする。」
- 展覧会のキュレーションを行う北九州のキュレーターより「熊本の作家だけでも全国巡回展をできるぐらい素晴らしい作家が揃っている。『作家の熊本』と呼べる。その作家を支援する実動の内容がすごい。」
- 九州ブロック会議で他県の支援センターから「各県ともに予算状況の違うなか、限られた予算の中でこれだけの取り組みができていることは素晴らしい。」
- 展覧会の計画を持つ人々から「作家や作品を大切に、たくさん発掘されている。美術の専門家とはどうやってつながり始めたのか？キュレーターを紹介してほしい。」

4. 展覧会を通して

生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.5 を通して

アール・ブリュット パートナーズ熊本 会長 西島喜義

(生の芸術 Art Brut 展覧会)

障害者芸術文化活動普及支援事業の一環として、社会福祉法人愛隣園とアール・ブリュット パートナーズ熊本との共催により、熊本県立美術館にて生の芸術 Art Brut 展覧会を開催することができました。

この美術館は、熊本地震で傷んだ天守閣から見ると、城域の緑の中にレンガ造りの重厚な威容を誇りながら、県の芸術・美術の最高の展示会場として広く県民に親しまれている存在です。

ここでの展覧会の開催は、アール・ブリュット パートナーズ熊本活動の評価にもつながるものとして大きな意義を有しています。

(アール・ブリュット パートナーズ熊本の活動)

アール・ブリュット パートナーズ熊本の活動の原点は 2014 年「Art Brut ジャポネ展」にあり、そのときの感動が出発点となっています。

今、県内をくまなく巡回し、アール・ブリュット作品の展示を通してアール・ブリュットを広く周知し浸透を図っているところであり、今回は、作品規模からも最大の展覧会として、登録作家 26 人の作品 110 点を展示し、併せて、世界でも 60 部のみ現存する、アール・ブリュット提唱者デビューフェの作品を特別展示することができました。

(アンケートに見る作品及び展覧会への反応)

開催の趣旨は、来場者に広くアール・ブリュットに接していただき、美術としての色彩の美しさ、構成やバランスなどとともに、驚き、感動や衝撃などを感じとって頂きたいことにあります。

では、実際に来場者はどう感じたのか。アンケートに記載された用語を抽出することで、来場者の概ねの反応を見てみることにします。

アンケート 748 件の結果から (最も使用された用語から順にピックアップ)

(詳細は別添参照)

(1) 作品から得られた印象に関する用語

「感動」「素晴らしい」(いずれも 130 件超)

「良い又は良かった」「美しい・きれい」など

例：どの作品も作家さんのピュアな心と情熱が伝わってきて感動

(2) アール・ブリュットへの評価又は価値に関する用語

「表現」98 件 「個性」66 件 「世界」65 件 「感性」32 件

「独特」「発想」「自由」「創作」など

例：どの作家さんの作品も個性があり、表現豊かで、その方々の感じ方、伝え方、世

界観が1人1人違い、絵や作品など引き込まれる

作品を見ていると、その方の頭の中の世界の見え方が垣間見える。

例：それぞれの作品の表現力にエネルギーを感じ、心揺さぶられる時間と空間を堪能することができました。人を測る物差しなんてない！純粹でひたすらに持ち込む（自己表現）姿。人とちがう魅力を認め合い、支え合う社会の大切さをアール・ブリュット展覧会で学びました。

（3）美術的評価に関する用語

「アート」14件 芸術・現代芸術など

例：絵から伝わってくる思いや気持ちが自分の心を揺さぶられ全てにおいてアートだ

（4）障害に関する用語

「障害」15件 「才能」など

例：障害って一言に言っても、それに負けないで”自分の世界”を表現する姿がとても素敵だな

などが主なものです。

以上の反応などから、来場者は、アール・ブリュット作品の持つ力をいろいろな言葉で表し、また、その特徴をよく見て、感じ取っていただいております、総括的には概ね評価をいただいております。

一方で、不平、不満や批判がほとんどみられないことや、障害等に関する記述が少ないことに留意する必要があります。

（今後の活動テーマ）

いまだに様々の思いが巡ってきています。例を挙げれば、

- ・アール・ブリュット作品を通して、なぜ人は感動するのか。衝撃を受けるのか。
- ・一人ひとりの作家は何を描きたいのか。そのテーマは何か。
- ・展覧会等での一定の評価が作家を取り巻く環境へどんな影響を及ぼすのか。

今後は、アール・ブリュット作品の持つ様々の価値と美術的評価への対応やその評価等が与えるアール・ブリュット作家と関係者への影響とその経年変化などについて、さまざまな取組みを進め、時間を重ねることで理解を深めて行きたいと考えています。

（共生社会へ）

アール・ブリュット パートナーズ熊本は、これからも大いに衝撃のアール・ブリュット活動を進め、障害のある人らの芸術活動を支援する熊本型のネットワークとして、障害のある人々の自立支援と社会参加を進めつつ、すべての人の共生社会づくりを目指す活動を進めて参ります。

展覧会に感じること

熊本県立美術館 学芸課（教育普及）参事 石丸美穂子

作家の存在・人生そのものが、表現する術となって現れた作品。そんな作品を観ると、私は感動するとともに、自分の生き方を振り返る機会にもなっています。美術館職員も、展覧会の準備のころから「楽しみ」とそわそわしはじめ、会期中は、休憩やちょっとした隙間を狙って作品鑑賞へ突撃し、中には作家と同じように制作に挑戦しながら「この表現はどうすればできるのか」と感心しています。

アール・ブリュット展を通していつも私が思うのは、「人の思いが集まる場所だな」ということ。たくさんの人が作品と交流し、感想を語りあうことで心が集う場となっている。そんなところが本当に素敵だと思います。そして、展覧会の開催以前から、作家を見出し、社会とのつながりを広げようと動かれる方々がいる。いかに展示するかを悩み、作品たちが輝く空間をつくりだそうとする方々がいる。ただ、作品を展示するだけではない、作品を通じて人の心と社会のつながりが生まれる「生きた展覧会」だと感じています。

松本寛庸 Matsumoto Hironobu

1991年 山鹿市



松本が描く対象には、何らかの共通点が見受けられる。天体や地図、乗物、建造物、戦争など、個の水準を超えた広がりをもつそれらは小単位の集積からなっている。具体的な構成要素が細かく描写されているものもあれば、多色の小さな区画がモザイク状に並ぶものもある。雲の隙間をゆったりと進んでいる「飛行機」や水中に半身を沈めた「潜水艦」は前者であり、後者には、「大日本地図」「大世界地図」「陣形」がある。これまでの地図には大陸の広がり具体的に描かれていたのだが、新しい地図は無数に広がる天体の一角に、細胞のひとつとなった世界や日本がおさまっている。遠い世界に目を向けている松本にとっては、わたしたちがいる日本も、それから世界全体も、ひとつかけらの存在となって、もっともっと広大な宇宙につながっているのだ。

主な出展

- 2010 「アール・ブリュット ジャポネ展」アル・サン・ピエール美術館（パリ）
- 2013 「アール・ブリュット・ジャポネ展」熊本市現代美術館（熊本）
- 2015 「VOCA展 2015 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—」上野の森美術館（東京）
「日本の作品セレクション展」ミュゼ・ヴィジヨネール（スイス）
グイグ・ミュージアム（オーストリア）
- 2017 「日本のアール・ブリュット KOMOREBI 展」
フランス国立現代芸術センター リュー・ユニック（ナント）

など、国内外で多数の出展がある

藤岡祐機 Fujioka Yuuki

1993年 熊本市



300円程度のはさみで、広告紙や色紙に1ミリにも満たない櫛の歯状の切れ込みを入れていき、「美術的な分類すら難しい」という比類なき作品を生む。切れ込みは、自然とらせん状になり、紙の裏表の色が交じり合っ、立体感も加わる。年々細くなっていて、近作は0.1~0.2mmほどしかない。最後に紙にななめの切り込みを1カ所だけ入れて作品が完成する。

自閉症のため、一度も言葉を話したことがない。小学1年で初めてはさみを持ち、寝る時も手放さなかった。毎日5時間18年間、切り続けた時間は3万時間を優に超える。気の遠くなるほどの積み重ねが、誰にもまねできない道を切り開いてきた。

「アール・ブリュット・ジャパン展」（2014、スイス）、「すごいぞ・これは！展」（2015、埼玉県立近代美術館）ほか出展多数。東京芸大の「藝大アーツ・スペシャル」のパンフレット表紙も飾った。

荒木聖憲 Araki Minori

1994年 玉名市



極小の紙片や糸のように細いこよりで描くちぎり絵は、猫の毛1本1本、ヒマワリの種の1粒1粒まで描かれていて、驚くほど繊細だ。まるで油彩画のように、厚みや質感まで紙だけで自在に表現している。

つまんだ色紙を爪を使って切り出し、画用紙にのりで一つつ貼り付けて作り上げていく。1作品が完成するまで1~3カ月かかるという根気のいる作業だが、仕事がある平日でも毎日6時間は没頭する。

軽度の自閉症。たまたまテレビで見た“放浪の画家”山下清にあこがれて、中学時代に独学で始めたが、すぐに頭角を表し、支援学校高等部の時には展示会も開くようになった。卒業後は風景画にとどまらず、抽象的なデザインにまで幅を広げ、こよりをレース編みにするなど新たな表現手法も次々に生み出している。

荒川琢磨 Arakawa Takuma

2009年 熊本市



アール・ブリュット・パートナーズ熊本の展覧会をこれまでにご覧いただいたご家族や関係者から、展覧会に参加できたらという推薦をいただくことがある。琢磨くんはそんな中から有望株として出現した一人である。琢磨くんが描く文字や数字や図形は、すべて琢磨製キャラクターに変身する。アルファベットの文字には手や足がつけられいろいろな動物になる。数字はそのままの形で、口を大きく開いたり閉じたりしたワニや蛇の様々なポーズとなる。楽器にもあちこちに顔があって笑ったり怒ったりして音を出している。地図に至っては、国土の大きさや国境も、自在に変化して、世界中どこにもなさそうな国が出ている。干支の動物たちが勢揃いした図には仲間から外れた猫や狸も混じっている。3歳の時に自閉症スペクトラムと診断を受ける。就学前からお絵かきが大好きで、鉛筆だけで描かれた琢磨ワールドが毎日誕生している。

植田正美 Ueda Masami

1964年 玉名市



統合失調症を患い、時々デイケアに通いながら読書や作詩、絵を描いて過ごす日々を送っている。30歳の頃から水彩画を描き始めたという植田は、いまでは油彩画の大作にも挑戦し、個展を開いたり公募展に入選したりもする。1m四方を超える今回の出品作「異界への入口」は人間のお腹を開いた図なのか、機械のメカニズムなのか、不思議な展開画面が広がる異界地図である。歪んだ背景のグリッドもゆらゆらと錯視を誘う。海の中を描いても魚たちの秘密の儀式を覗いているようだ。自らの幻想に基づき、どこにも見当たらない情景が描かれた絵画構成である。今回の出品はなかったが、異界の入口を通過して出会ったに違いない、あちら側にいるものたちがたくさん登場する油彩画の小品には、あり余る創作意欲が表れている。

内野貴信 Uchino Takanobu

1974年 熊本市



内野が様々な大きさに切ったダンボールの断片に描くのは、ほとんどが日常生活の中で見ることができるものである。食べ物や、身につけるもの、草花や樹木などが見たままに写実的に描かれるのではない。マンガや広告のサインのように単純化されている。ものを見ながら写生するのではなく、イメージの中にあるものが絵になるのである。背景にはいつも抽象絵画のような色面分割が施されている。そして裏面に自ら付けたタイトル文字が大きく書かれている。今年の新作群にはグッと変わった人物像が加わった。座っているヒト、寝そべっているヒト、競技選手もいる、モデルは施設の人たちか？同じサイズとイメージの小さな魚がたくさんぶら下がったモビールも今年始めて「しょうぶの里まつり」の機会に作られた。単純な表現でも動きや気分がよく表わされている。見る人は内野のイメージの遊びの世界へ誘われる。

岡井紀代子 Okai Kiyoko

1951年 熊本市



生き物も食べ物も、岡井の手にかかればすべて、色彩豊かな装飾品となる。そのまま T シャツやアクセサリー、バッグなどのデザインに活かされそう。虫や魚や獣たち、果物や草花まで対象物に選ばれたものは、すべて本物の表面とは異なる配色で塗り分けられる。それらがおかれた背景は空白の場合もあり、色違いの色面に塗り分けられるものもあれば、対象物と同じように縞々や点々で飾られることもある。泳いでいる魚たちも、半分食べられた？食卓の魚も、ボディはドットからできている。以前は農業班にいて野菜を育てていたという岡井は、今では小さな筆で丹念にアクリル絵具を塗り分けることに専念している。

小田彩映子 Oda Saeko

1984年 宇土市



小田彩映子が描くのはスポーツ競技の場面ばかりである。ほとんどが昨年に制作された今回の出品作では、平昌で開催された2018年オリンピック冬季競技大会で話題になった種目が並んでいる。スノーボード、スピードスケート、カーリングである。TVの画面や新聞の画像を再現したかのような描写は迫真的で臨場感に満ちている。描かれている顔はやや戯画化されていて特定の人物とは見えないのだが、実際に活躍し人気を博した選手たちの面々が思い浮かばれる。遠景に豆粒ほどの観客たちが小さく描き込まれているのもゲームの興奮が伝わってくる。2019年に描かれた新作はモダンバレエの場面である。律動感溢れるダンサーたちの姿態は、実際の競技とは離れて3Dの夢空間を跳ね廻っている。

菊川豊 KikukawaYutaka

1945年 菊池市



主にクレヨンで描いた力強い独創的なイメージは「自分の頭の中に出てきたもの」だと言う。ピカソのようなカラフルな抽象画から、靴墨だけで描いたモノクロの犬まで作風は幅広い。一度完成した絵に切り抜いた紙や枯葉を貼って修正を加えるなど発想の趣くままに仕上げていく。墨汁をつかった影絵のような樹木、黒白の濃淡で作り出す山水は最近よく見られるようになった。

中学を卒業後、家業の青果店などで働き、50歳を過ぎてからグループホームで暮らしている。絵を描き始めたのは64歳の時で、施設のレクリエーションがきっかけだった。最初は乗り気ではなかったが、楽しさに目覚めると自室で創作に没頭するようになった。2015年に熊本県立美術館分館で開催された第1回アール・ブリュット展覧会に作品が選出されたことで、さらに創作意欲が増したという。

北島宣夫 Kitajima Norio

1975年 宇城市



「赤が好き」と言う。水彩やアクリル絵の具で、画面いっぱいに鳥を表現する。トキのくちばしや脚、カルガモ、鳥を彩るツバキの花…作品の多くに印象的な赤がある。小学1年の頃から、自宅ですべてのペースで描いてきた。

4歳で自閉症と診断された。言葉が出ないことを心配した母親が、「プールの色は水色」などと色を塗ることを会話のきっかけにしたことが、絵を描き始めた原点という。その後、鉄塔が好きで高台へ散歩に連れていってもらったうち、そこから見える列車に興味移った。列車は鳥の名前が多かったため、鳥が大好きになり、今につながっている。

2011年「日本児童・青少年バリアフリーアート英国展」出展。

2011年「スペシャルオリンピックス夏季世界大会」(ギリシャ・アテネ)では、陸上3000メートル走で金メダル。

駒田幸之介 Komada Kounosuke

1988年 熊本市



駒田はボールペンや細いマーカーやクレヨンなどで画用紙に線を引いていく。線は何かの形を描くのではなく、ただひたすら同じ方向に引かれ、画面が埋められていく。いつしかその線は塗り重ねられ、三角形や四角い形を作っている。すると今度は線の向きと色彩が変えられ、90度交叉した形で新たな形が塗り重ねられる。こうしてできあがった画面には、色違いのいくつかの形態が、並んだり斜目に組み合ったり、重なったりしている。ときには大きな余白もあらわれる。形に囲まれて見えてきた余白である。まれに風景や花を描くこともあるようだが、それらにしても線で塗りつぶされて形が見えてくるものである。3歳で自閉症候群と診断された。城南町の生活介護事業所に通い、絵を描いて過ごす。高速道路が好きだという駒田は、一心に線を引く手を止め、突然、立ち上がり部屋の窓から遠方の高速道路を眺める。そしてまた画面に帰っていく。

菅原和秀 Sugahara Kazuhide

1956年 天草市



細かい線描や点描で表された菅原の作品には、見えるものと見えないものが混在している。現実の生きものや風景もあれば、まぼろしの動植物、そして物語に登場しそうな謎めいた人物たちなど。本人曰く「発見と実験の冒険」を念頭においているそうだ。「発見はあらたなことを見つけ出す楽しさや新鮮さ、実験は発見したものを実際表現してみる、冒険は型にはまらないことを意味している」と語るとおり、日常の中であって目を向けられなかったものたちが、繊細な線や豊かな色彩で活発に主張し始める。高校生の時に体操クラブ練習中の事故で頸髄損傷を受け、両上下肢の機能障害を負っている。菅原の作品には、ゼロに近い握力の手でゴム紐で括り付けたペンから編み出される驚異の世界がある。

立尾慎士 Tateo Shinji

2006年 熊本市



ひと筆書き？途切れのない線から生まれる、おかしな格好の生きものたちは慎士くんの空想の世界からやってきた。台詞らしき言葉を話しているのか、文字が書き込まれているけど、通訳なしでは意味不明である。蟹や海老や毛虫に似たこの世の生物を思わせる形も混じっている。でも多くは見たことのないものが一枚の紙の中にもうごめいておしゃべりをしている。生きものなのか乗り物なのか、宙空を飛んでいるのか、水中を遊泳しているのか、わからないけれどみんな何かしら動いている。何枚もの紙を立て続けに見ているとアニメーションのようで怪獣たちが囁くストーリーを知りたくなってくる。ダウン症で菊池支援学校に通う慎士くんは絵を描くことが大好きで毎日毎日描き続けている。

塚原亮 Tsukahara Ryo

1992年 熊本市



おなじみの生きものたちが塚原亮の手にかかると、見知らぬ珍獣や怪獣に変わってしまう。黄色と黒のシマウマのような蛸は足をうじゃうじゃ八方に広げている。水晶玉みたいな眼を見はったチンパンジーは異星からやってきたのかと思わせる。虎はといえば針状に描き込まれた全身の毛や髭、そしてシンボルである黒の縞は今にも動き出しそうに豹変の予感を見せる。これらのほかにも魚の絵が多く描かれている。海の中の魚も魚類図鑑の中に探し出すのが困難なほど、頭の形や鱗模様が独創的なものである。自閉症で、熊本市立中学校の特別支援学級を卒業してからは、自宅で創作活動を続けている。色紙を細かくちぎった貼り絵や、ゴム板を彫って作ったハンコの作品もあるそうだ。

寺本澄子 Teramoto Sumiko

1955年 熊本市



描くのは「お友達」限定。色鉛筆やボールペンで描いたスマイルマークのような丸と線の顔が、画用紙の上にどんどん増殖していき、画面を埋め尽くしてしまう。

「私にはこれしか描けないもん」。描く際に迷いを見せることもあるが、やはり今日も「お友達」を描く。その日の気分で色彩が変化。楽しいと明るく、気分がさえないと暗い色になる。

知的障害。普段はひかえめで、おしとやか、そして、お話が好きでお世話好き。「お友達」とは誰なのかは分からないが、いつも誰かが一緒にいる。

萩野雅治 Hagino Masaharu

2001年 熊本市



5歳の頃から描き始めたと言われる雅治さんの作品は何冊ものファイルに、ジャンル別に整理されている。動物が一番多いが、それも動物園で人気の哺乳類や鳥類に始まり、シャチやマンボウ、イルカなど水族館か魚類図鑑のなかでしかお目にかからない珍しい魚類かとおもえば、鰈やイカ、蛸など食卓にのぼる魚たちもいる。ダンゴムシやバッタのように身の回りにいる虫たちも混じる。動物のほかにも、果物や野菜も身近なものばかり。生きものや食べ物以外では、乗り物がたくさんだが、乗り物たちもまるで生きてるように表情が豊かだ。みんな雅治さんのお友だちなのだ。ヘリコプターや飛行機はもちろん鳥みただし、バイクや新幹線は地を這う生きものに似ている。消防車やパトカー、救急車やシャベルカーなど特殊な乗り物は見事に特徴が捉えられている。展示作品にはないが、おとぎ話のシリーズや50音が頭文字になっているモノたちのカードも揃っている。

原三保子 Hara Mihoko

1956年 熊本市



ボールペンで一面に描込まれた震えるような線が動物や怪獣、人物たちを形づくっている。クレパスで部分的に彩色されているものあり、僅かな余白を残して全体が数色に塗り分けられたりしているものもある。動物の方は虎や豹らしき実在の動物もいれば、想像上の幻獣、珍獣も混じっている。震えるような線といったが、実は線はゆらゆらしているのではなくて、短い単位の線が平行したり、小さな四角形に画割りされたりしているのだった。動物の身体も、真上から眺めたオープンカーも同じ構造を持って描かれている。原は写真や動物図鑑、恐竜図鑑を見て描いている。描かれているうちに見本から遠く離れ、想像力を膨らませた作品が次々と誕生してきた。

平山由美 Hirayama Yumi

1961年 菊池市



明るい色彩に力強い線で描き出される平山の画用紙には、犬や猫、ウサギ、羊、鳥などの動物ほか、卓上のマグカップやボトル、ときには紋様のような抽象形態が並んでいる。のびのびとした生命力溢れる表現である。平山は早くから絵を描く機会が多かったが、以前は黒が基調で、背景や対象も黒く塗り潰しているほどだったという。色彩豊かな方向へ変化したのは、施設での活動の時間として絵画に向かうことになってからである。旺盛な制作欲で休日にもクレヨンを手にとり描くことも多い。平山の描く動物たちは正面を向いた像が多い。通常は横向きに捉えられる動物の肢体を正面から見据えると、まるで人物の肖像のように、心理の機微さえ見えてくる。背景の処理にも独特の感覚が表れている。

本田明奈 Honda Akina

1983年 宇土市



明奈さんの最高傑作は「すもう見物」と「おすもうさんとゆかいな仲間たち」だ。「すもう見物」画面の3分の2を占めるのは、顔だけで首から下は5本の線になっている整列した人物たちなので、下部に描かれた楕円形の図が土俵なのだと判るのは一瞬あとである。観客たちの視線がその土俵に集中し、湧きあいながら力士の動きを見守っているのが見えてくる。土俵で向かい合う両力士と真ん中に立つ行司、そして土俵東西の縁には塩が盛られている。単純な線は鉛筆で引かれたもので、土俵だけがクレヨンで塗られている。一方「おすもうさんとゆかいな仲間たち」の力士は相撲会場ではないところに一人立ち、犬や草花や虫、魚にまわりを取り囲まれている。明奈さんの日常の中に夢のように現れた憧れのスターである。その他の作品にもものびのびマイペースで暮らしている愉快的生きものたちがたくさん登場する。

本田美奈子 Honda Minako

1956年 熊本市



本田のスケッチブックには色とりどりの花の絵と文字が描き込まれている。季節や年月が冒頭に書かれているので、絵日記なのかと文字に目をやると、それらが植物の名称や種苗の注文記録であり、また生育の特徴がメモされているのだとわかる。花の描写には植物図鑑のような写実性はないが、書き添えられた植物の名称はたいへん専門的なものらしく類別されている。庭園の栽培計画が緻密に記されているのだ。これまでは植物の絵と、色分けされた柵目からなる構築物の群だけだったが、今年作品には、何の動物か不明だが生きものらしき形が現れた。だが「ガーデニンググッズ」「スタチュー」という書込みがあるから、これらは生きものではなくて、園芸用の装飾品、置物だったのかもしれない。

曲梶智恵美 Magarikaji Chiemi

1981年 熊本市



十代以来、油絵制作や手芸、園芸など手作業が中心の趣味の活動に力を注いできた。主治医の進言もあって、言語によるコミュニケーションよりも創作を通じて自己表現を行うようになった。手先の器用な曲梶には、精緻にイメージを積み重ねたコラージュ作品が多い。それも編んだ麻紐や毛糸を組合せてヴォリュームを出すものと、写真の切り抜きを貼り合わせて作った画面の2種の作品群である。前者では色とりどりの上向きU字型や渦巻きのテープによって動力感が表現されている。自身で撮ったものやインターネットから拾い出した写真を用紙に印刷し貼り合わせた後者からは、曲梶の好奇心や関心が向けられた世界が見えてくる。地塗した画面を引っ掻いた細い線描の上にコラージュを重ねていく方法は、以前、図画工作の時間に習ったスクラッチ技法を思いだして併用してみたそうだ。

牧野慎也 Makino Shinya

2001年 菊池市



慎也さんの作品群には、画用紙にクレヨンや絵の具で描かれたものと、様々なモチーフが小さなカードに描かれ、それらが透明テープでコーティングされたシリーズの二種類がある。前者はおもに日中を過ごす施設で作画の時間に課題として与えられたモチーフが選ばれ、庭の植物や樹々、食べ物や傘、道具など身の回りの品々が描かれている。コーティングされたカードのシリーズに描かれたものも同様のモチーフなのだが、「食べ物」「お菓子」「楽器」「行事」「場所」などとカタログのように分類できるモノやコトが小さな画面に集められている。慎也さんはイメージのコレクターだ。集められたイメージがカレンダーの数字や本の目次のように、秩序をもって並べられているのだ。

松下高德 Matsushita Takanori

1947年 熊本市



ぶどうの木に黙々と静かに、無数の釘を打ち込んでいく。木肌を埋め尽くした釘のすきまに、また釘を打ち込む。数百本、数千本と打ち込み続けた果てにできる「釘の森」が完成する。見る人を圧倒する独自の作品は、県外の美術展でも紹介されるなど評価を受けている。

50歳の時に入所したが、当初は芸術活動に興味はなさげで、紙すき用ミキサーのスイッチ係だった。ところが職員が、母親から鳥の巣箱を作ったことがあると聞き、金づちと釘を渡したところ、制作に熱中するようになった。いつも笑顔を絶やさぬ温厚な性格。

森山茂 Moriyama Shigeru

1962年 熊本市



一度見たら忘れられないような同じキャラクターが、さまざまな色で描かれて、スタンプのように画用紙を埋め尽くしている。キャラクターは職員の間で「ブルブルおじさん」と呼ばれている。自発的に描くのは、このブルブルおじさんだけ。約100個のギンナン、一つ一つに描いたこともある。

施設の秋祭りで、かつて、このキャラクターの手づくりTシャツを販売したところ、一番人気だったという。「森山ワールド」のファンは多く、インディーズバンドのCDジャケットとして採用されたこともある。

制作は、一人静かな場所で、黙々と取り組む。

山品聡美 Yamashina Satomi

1967年 山鹿市



地名や人名が繰り返し書かれて列を形成していると、それは詩の形式か新しいタイプの書道かとも思わせる。文字は改行ごとに一字下げられ、列は微妙に斜行している。意図的に図案化されたもののように見える。県の名前を練習している時期があって、北海道から沖縄まで、順に書かれたそうである。群馬と岩手は県名だが札幌は都市名。お習字の稽古として文字は繰り返されていたのだった。カラフルなグリッドやストライプと組み合わせになったカレンダーには、月の行事や季節の特徴が描き込まれマーカーなどで鮮やかに彩色されている。そして日付の数字の代わりに草花の列やまる四角が並んでいる。

山本規仁 Yamamoto Norihito

1998年 熊本市



始皇帝、織田信長・歴史上の英雄たちも、彼の空想の世界では、謎の宇宙怪獣のような衝撃的な姿をしているようだ。A4のコピー用紙にボールペンで、細かい線を重ねて描く作品はおどろおどろしくもあり、ユーモラスでもある。

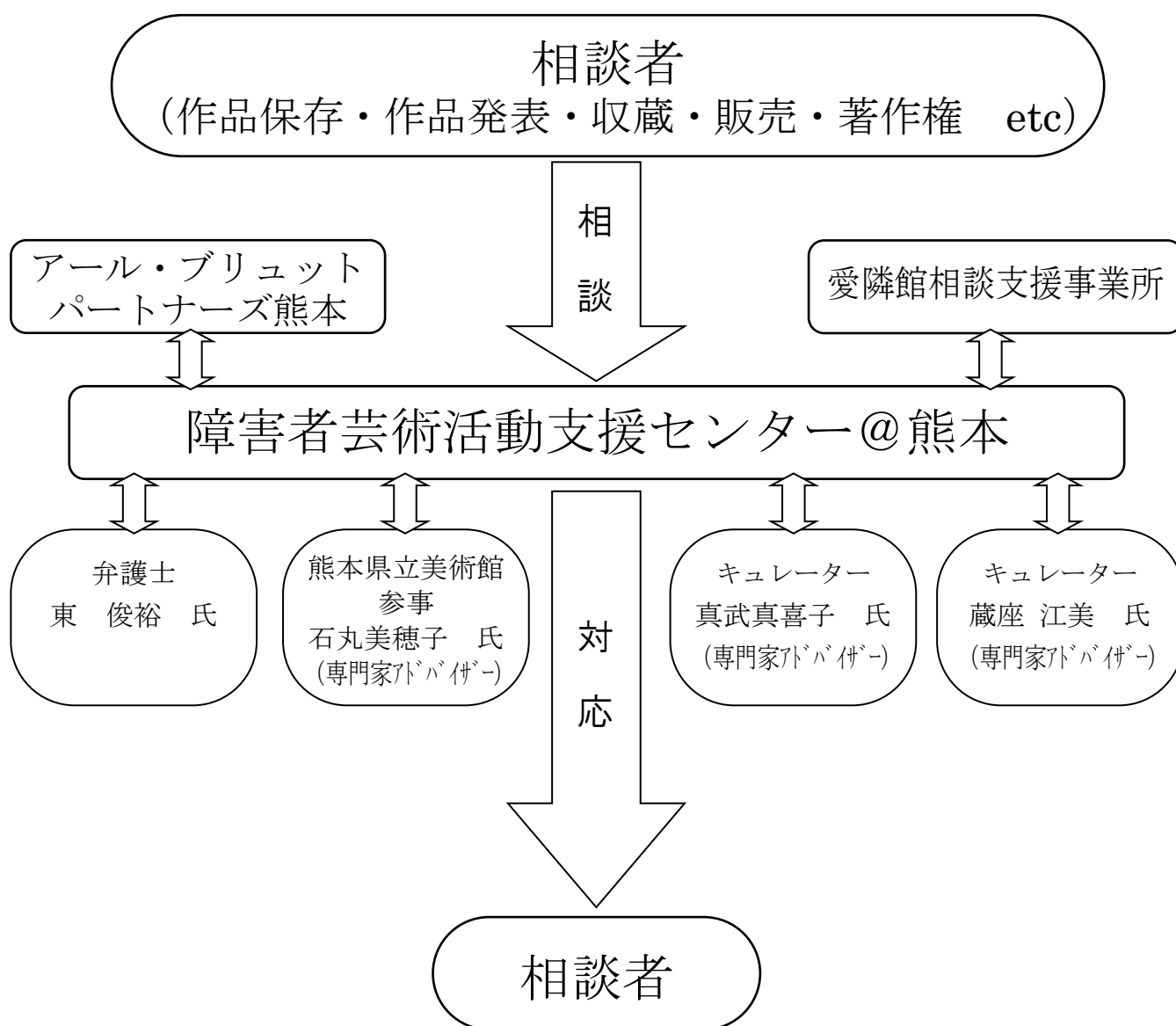
ゲームなどから着想を得て、動物と人間のイメージが混ざり合っていると言う。ただ描いた本人すらも「何ですかね？」と返答に困るものもある。

小学校低学年の時、1人で通学するのを心配した母親に「1人じゃない。仮面ライダーと一緒にだったよ」と笑って答えていた。育み続けた空想の世界から創造物が飛び出した。

6歳の時、高機能自閉症と診断された。就寝前のそうめんの木箱の上が「アトリエ」だったが、今は田崎市場内事業所に就職し、なかなか絵を描く時間を見つけられなくなってきた。

6. 相談支援の概要

相談支援の流れ



相談支援の概要（抜粋）

	相談	対応
1	作家より、国内開催の公募展に応募してみようと思うが、応募用紙が欲しいので、郵送してほしい。	事務局で当該応募用紙を準備し、本人に郵送した。
2	県内福祉事業所より、画集を作成したいので、これまで出展した作家や展覧会情報と写真を提供して頂けないか。	著作権の帰属を明記したうえで使用することを確認し、情報と写真の提供を行った。
3	作家家族より、出展予定作品を探しているが、見つからない。作品数が多くなってきており、整理が難しいのでお手伝いをお願いしたい。	事務局員が作家宅を訪問し、作品の整理を手伝った。
4	作家より、街で知り合った会社の社長から作品を借りて展示したいと申し出があった。どのような手続きをしたら良いか相談があった。	場所、期間、安全保障、出展料等の確認をアドバイスした後、作家から直接先方への説明を依頼されたため、先方に連絡し、作家に内容を伝えた。
5	新聞記者より、作家が作成した作品について、取材したい。愛隣館で預かっている作品の前で本人の写真を撮りたいので協力してほしい。	時間、場所を調整のうえ、愛隣館にて、取材が行われた。場所、撮影補助、情報の提供を行った。
6	熊本市より、熊本市障がい者サポーター研修会で、定期的に講演会を実施している。芸術活動支援の内容で講演をしてほしい。	事務局長が講演をすることになり、チラシ作成用のデータ提供を含め、広報、当日の展示等の協力も行った。
7	作家家族より、新聞社からチャリティイベントに作品を出してほしいと打診があった。去年は断っているのに、断りづらく一度了承したとのこと。	アドバイザーより、これまで原画の販売をせず価値を保ってきたものに、評価額が決まってしまう危険性もあることを伝え、家族も納得し、チャリティの申し出を断った。
8	福祉事業所より、他の事業所と合同展示会や即売会を開催している。出来るだけ多くの方に来てもらいたい。	本会に情報を頂ければ、会員に一斉送信できるネットワークがあるため、是非活用して欲しいと伝えた。
9	福祉事業所より、額縁に統一感を持たせ、作品を邪魔しないように、全ての額を透明に変えようと思っているが、どうか。	作品によっては広がりを感じられるが、展示の際ワイヤーが見え、背景が邪魔をする。作品毎に選んだ方が良く、とキュレーターがアドバイスした。
10	山鹿市より、友好都市オーストラリアからの訪問に山鹿市出身作家の作品レプリカをお土産として持たせたい。作家との調整をお願いしたい。	山鹿市担当者に詳細を聞き、作家の了承を得た後、レプリカを額装して提供することになった。額縁屋と調整し、緊急で額装を実施し、作家の紹介文と展示歴等に関する情報を提供した。
11	北海道より、アール・ブリュットの支援を学びたいが、なかなか系統立てて教えてもらえないので、作家家族からの紹介を受け、来所。	事務局長と事務局で対応。これまでの私たちの歩みを説明、資料を提供し、移動美術館の見学などをアレンジした。

	相談	対応
12	県庁担当課より、ダウン症協会九州大会で芸術活動支援について紹介したい。パンフレットのデータを提供して頂けないか。	本会内での協議後、データの提供を行った。
13	県外企業より、作家の SNS にコンタクトしているが、連絡がとれない。作家の作品を使用したグッズを作りたい。作家との連絡調整をお願いします。	H 社に詳細を聞き、作家に意向を尋ねた。作家が調整役として事務局が間に入ることを希望されたため、その旨を先方に伝え、事務局が調整役として事業を進めることになった。
14	作家・家族が来館し、現在での本人と家族の気持ち及び心情と、販売・作品保存・連絡手段と方法など配慮すべき点や不安事項の相談があった。	販売方法や経路については、熊本市内の福祉施設商品を扱うお店の担当者をつないだ。また、配慮すべき事項について一つ一つ確認した。
15	熊本市現代美術館より、次年度開催する企画展に際し、映像資料を作成するので、写真提供等の協力をお願いしたい。	著作権標記をするという条件で、協力する旨をお伝えし、後日現代美術館に訪問し、写真データの提供を行った。
16	大学関係者より、県外で講演をする時に芸術活動支援の紹介をしたい。資料等を提供してもらえるか。	著作権標記のうえ、情報と映像の提供を行った。
17	県内相談支援事業所より、相談を受け持っている利用者の中に創作活動をしている人がいるので、話を聞かせてもらえないか。	本会の活動について、説明を行った。相談内容が作品の製品化についてであったため、県内事業所の取り組みを紹介した。
18	県障がい者支援課を通して、県人権同和政策課より、人権フェスティバルで移動美術館を開催して欲しい。	展示スペースの確認、必要備品、経費等の打ち合わせを行い、事務局でお預かりしている作品を展示することになった。

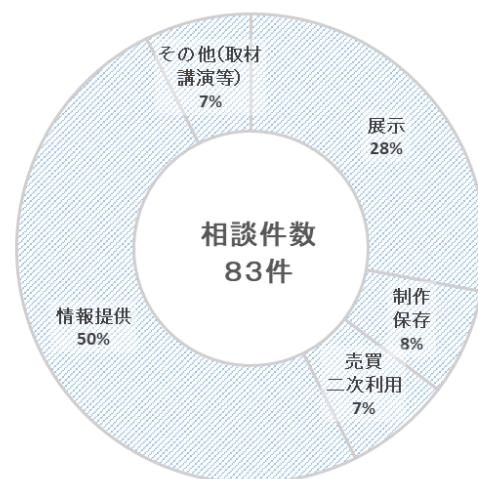
令和元年度 実績

・連絡調整件数

情報提供、連絡・日程調整 メール 309件 電話約300件
 会員メール（情報発信 43件）

・相談件数 83件（作家・家族・支援者 等）

芸術活動に関する情報提供、展示に関する事
 売買・二次利用に関する事



作品の取り扱いに関して
私たちが大事にしていること

1. 作品の取り扱いに関して

- (1) 作品を借り受ける時には、契約書を作成し、書面による作家の権利保護を行う。
- (2) 作品に保険をかける。(作品展示期間と準備、撤収の期間)
- (3) 作品に敬意を示し、作品を保護する(手の汚れ、皮脂をつけない)ため、手袋を着用して取り扱う。
- (4) 借り受けた作品の保管は、日光の当たらない(紫外線防止)、湿度の低い場所に鍵をかけて保管する。
- (5) 作品移送は、梱包材による作品の保護とともに、保険をかけて実施する。

2. 展示に関して

- (1) キャプションの作成、作品と額の確認(汚れ、緩みなど)を行う。
- (2) 展覧会の展示は、原則としてキュレーター(学芸員等)、専門業者が行う。
- (3) 移動美術館等では、作品の中心部が床上 135cm となることを基本に展示する。
- (4) 額装されている作品を展示する場合、高さ、又は額の端を揃える。
- (5) 展示会場内での写真撮影について、フラッシュは厳禁であることを伝える。
- (6) 日光の入る明るい場所での展示は特に配慮し、最短期間に留める。場合によって、遮光ガラスを入れて、作品への負荷を軽減する。作家の許可を得られるならば、レプリカ作成・展示も検討する。

3. その他

- 展覧会時には、観覧者に感想の記入をお願いし、一覧にして作家・支援者に送る。
(作品と観覧者のメッセージのやりとり、コミュニケーションを重視する)
- 作家・支援者と連絡を密にし、必要時には専門家と連携して、意向に添う支援を心がける。

	内容
1	何でしょう。不思議な感覚になっています。自由？解放？そんなかんじです。とても私には良い空間と時間でした。
2	全ての作品がそれぞれの想いを込められて描かれているのが伝わり。作者の生き様のようなものが感じられた。
3	色がカラフルで、とてもきれいで細かい作業もされていて、それぞれの作家さん達のエネルギーをすごく感じました。圧倒されっぱなしでした。また次に開催される時も見に来たいです。
4	どの作品も自由にやりたい作品を作っていることが伝わってきました。単純に時間のかかりそうなものは、作家さんがその時間に何を考えて作業していたのだろうと考えさせられました。
5	皆さんの芸術感覚、素晴らしいです。これからも沢山、思いのままに作品を作り、楽しませて下さい。
6	パワーと人間の精神の豊かさを感じました。
7	形のとらえ方、色のとらえ方等一人一人の違いはあるが、皆、線の丁寧さは共通しているように感じました。一点一点への集中力すばらしいものと感じました。
8	素敵な空間ばかり見せて頂いて、心の中が温まりました。
9	昨年初めて観て、感激して、今年も参りました。素晴らしいです。たくさんの方に観て頂きたいですネ！
10	すばらしい作品!!すごいです。本当にありがとうございます。作家さんも多くなって今後楽しみです。
11	各個性が思いがけない作品となり、輝き、人々の心に残る作品ばかりで感動しました。
12	描くこと自体が喜びであるということが伝わってくる。人に見せよう、よく見せようという意識を超えているところがすばらしい。
13	感動し、エネルギーを頂きます。自分がいかに「粋」にとらわれていきているか痛感します。
14	それぞれの方の興味、関心が非常に多岐に渡っていると思いました。各人、それぞれ違うという当たり前のことを再認識できました。
15	人はそれぞれ違った才能があつて、うらやましくも思った。これからももっと自分の道突き進んで下さい。すごく良かったです。
16	とても美しく緻密で素晴らしい作品ばかりでした。一つの作品を仕上げる力もすごいと思いました。
17	驚きの連続でした。とても素晴らしいです。色彩、素材、あととても細かい作品もあり、作品への思いが伝わってきました。
18	1つ1つの作品を通し、ひたむきに”続ける事の意味”想像力をかきたてられる世界。素晴らしい作品との出会いをありがとうございました。

	内容
19	色のバランスや表現が個性豊かで一つ一つが素敵でした。作家さんの作品をポストカード以外でも購入できたらよいと思いました。また、作品を見る時に照明が反射して見づらかったのが少し残念です。
20	生命力を感じました。幸せな時間でした。
21	見ていてニヤリすることが多い展示でした。楽しんで描いて創作されているのが良く分かりました。いい時間でした。これからも自由に表現されて下さい。今後も楽しみにしています。
22	どの作品も今までに見たことがない。細部まで規則的に表現出来ている作品もあり、何度も見た集中力に脅かされる。色使いは優しく心地よかった。日常的に作品に触れる場所がある(展示)ともしっかり認知されると思う。家で飾りたいという人もいるのでは。
23	新人の方の作品が増え、喜ばしいことです。3年目ですが、作風が少し変わられた人もおられるようで日々の研鑽でしょう。又々感動しました。
24	昨年にも増してスゴイ作品ばかりで感心(感動)して、作家の皆さんに敬意を表します。
25	very fainting showcase of the talent of the group of artists personally. 訳:アーティストグループの才能を個人毎に非常に巧妙に示しています。
26	Very talented artists.We wish them have a brighter future, both for their live and for their creation.「がんばれ」 訳:非常に才能のあるアーティストの方々です。皆さんの人生と創造共により輝く未来が訪れるよう祈ります。
27	一つ一つの作品が丁寧に作られていて、ひきつけられました。たくさんの人に知ってもらう機会が増えると良いですね。
28	今年も個性豊かな作品が多く、とても見応えがありました。障害の特徴の現われ的なことも1つのアートになるってすごいと思います。1つ1つが生きています。
29	とてもあたたかな気持ちになれました。今日は午後から休暇をとって、何をして過ごそうかとぼんやり考えていたのですが、熊日新聞のコラム欄を喫茶店で読んで、なんとなく足を運んでみました。心地よい時間を過ごすことができました。ありがとうございます。
30	エネルギーに満ちていたり、驚くほど繊細だったり面白い作品でした。評価や人にどう見られるか等関係なく在りのまま表現されており、しばらく目が離せないものも多かったです。
31	昨年も見させていただきました。作品は心のおもむくままの表現だったり、描くことの心地良さや、没頭して作品を作られている様子が伝わってきます。作品を見ていると、その方の頭の中の世界の見え方が垣間見えるようにも見えます。グラグラ、ゾクゾクするような感覚になるのは、きれいなものも恐ろしいものも混在しているからかもしれません。とても面白い企画だと思います。また来ます。
32	The painting is very beautiful.This Painters are courageous. I Like this exhibition. 訳:絵がとても美しいです。作家さん達は勇敢です。この展覧会が好きです。

	内容
33	Nice atmosphere, plenty of space, nice music and great art. 訳: 素敵な雰囲気(環境)、空間のゆとり、良い音楽と素晴らしいアート!
34	絵のことはさっぱり分からないが、沢山の作者の方が独特な表現で描かれていてスゴイなと思った。又創作を通して自己表現ができるようになったと書かれていたが。自己表現って改めて沢山の表現の仕方があると思った。
35	色彩、構成、アイデアなどすばらしいの一言です。とても根気を必要とする作業ですね。これからも私達に元気と夢を与えて下さるようお願いいたします。
36	毎年楽しみに鑑賞させて頂いています。どの作品もとても真似できないような細かい表現から、大胆な表現まで様々で、とても感銘を受けました。これからの皆様のご活躍を楽しみにしております。
37	どの作家さんの作品も個性があり、表現豊かで、その方々の感じ方、伝え方、世界観が1人1人違い、絵や作品など引き込まれる物がありました。機会があれば、また色々な方の他の作品も見たいなと思いました。
38	それぞれに個性があり、とても面白かったです!!コトバにすることがムズカシイのですが・・・心に響く作品を間近に見ることができ、感動しました。ありがとうございました。
39	展覧会に至るまで一言では表せない程大変だったろうと思います。けれども作家さんやご家族、周りの方々が喜んでおられる姿を目の当たりにして、改めて素晴らしいことだと思いました。今回は外国の来場者も多く、快くアンケート記入されていました。言葉は通じなくても良い作品は心通うものですね。
40	すごい一言!!新聞、テレビでは良く目にするが、実物を見るのは初めて。通り過ぎるところでしたが、とても見応えがありました。
41	様々な表現がいかされた作品ばかりでとても面白かったです。作家さん、一人一人の個性が大切に上げられ、こうして展示される機会があることがとても素晴らしいと思います。
42	ART IS GOOD FOR SOUL AND SPIRIT. ART IS HEALING OF EVIL ,OF SUFFERING ART IS TRANSCENDING 訳: アートは魂と精神に良いものだ。 アートは悪と苦しみからの癒しだ。 アートは超越している。
43	すごく心に残る作品ばかりで自分も作品制作をしたくなりました。
44	友人から話は聞いていましたが、想像以上にすばらしかったです。芸術的にすばらしく、色使いがとてもいいですね。
45	素晴らしいと思います! 感動しました。※ギャラリーを運営しています。何かお役に立てるような気がしています!!
46	作品個々のエネルギー、ダイナミズム、主張と共に、ある種の静謐さを感じ、圧倒されました。

	内容
47	一つ一つの作品がじっと見入ってしまうような力を感じました。それぞれの世界観や作品のタッチは違いますが、その人の「好き」だったり「気になってしょうがない」ものが描かれているようで、伸び伸びと表現されていて感動しました。どれか一つはとても大好きな作品に出会える展示会だと思います。菊川さんの不思議な絵や、植田さんの迫力ある絵が印象的でした。また、作家や作品を見出して、展示したり、アーカイブすることは、とても有意義な事業だと感じました。
48	それぞれの作品の表現力にエネルギーを感じ、心揺さぶられる時間と空間を堪能することができました。人を測る物差しなんてない！純粹でひたすらに持ち込む(自己表現)姿。人とちがう魅力を認め合い、支え合う社会の大切さをアール・ブリュット展覧会で学びました。ありがとうございました。
49	それぞれ個性がはっきり出てて、どの作品にも感銘受けました。又、この展示がずーと続いて私達に素晴らしい作品を見せて下さい。
50	毎年作家の皆さんの作品を鑑賞させて頂く事が楽しみとなりました。毎回、技法に驚いたり、作品で笑顔にさせて頂いています。もう少しゆっくり見学できる時間が欲しかったです。
51	他の展覧会の帰りにのぞかせて頂きました。TVニュースで知っていましたが、何かの機会がなければ直接観る機会は無かったです。一生懸命取り組んでおられる作品が多くの人目に触れることを願っています。
52	今回はじめてこのような展覧会が開催されていることを知り、たいへん感動しました。どの作品も味わい深く、たいへん興味を持ちました。
53	自分が感じた事を表現する形が絵画であり、その表現が様々で個性がよくあらわれていると感じました。子どもに障害があるので、子どもに何か打ち込むものを見つけてあげたいと日頃から考えています。何かヒントを頂けたかなと感謝します。
54	それぞれの個性的作品が自分では思いつかない作品で楽しかったです。プロフィール写真が誇らしい表情でステキでした。
55	自分の世界があり、とても楽しく見させていただいた。みなさんすごいです。一見、らくがきと思えるものでも、きちんと額に入れるとすばらしい作品となり感動しました。ささいなことでも、みっけな目をもてるようにしていきたいと感じました。
56	出展者の独自の感性に感動しました。これからも創作活動頑張ってください。素晴らしい作品ばかりで心がふるえました。
57	彼らには自分たちがなかなか入れない世界にすうっと入り、そうさくしているように感じた
58	どの作品も見応えのあるものばかりで、見ていてワクワクしました。次回も楽しみにしています。
59	二度目ですが、「個性」がはっきり光っていて、とても良い。プロの画家でもとても考えつかないような作品の出来である。
60	Very unusual & different 訳:非常に珍しく、特徴的だ。

	内容
61	どれも素晴らしい作品ばかりでした。3才と6才の子供も興味津々で、とても刺激になったようです。
62	私はあまり芸術作品の良さを分かる方ではありません。ですが、なにか絵にひっぱられるものがありました。作家さんなりの世界観は当然私とも違っていて、もっと芸術(art)を近くに感じていきたいと思いました。良い何かを得た気がします。ありがとうございます!
63	どの作品も感性豊かで素晴らしかったです。
64	ダイレクトな表現、原石をそのまま表し続けるのか、それとも・・・?
65	くすっと笑える作品や粹にとらわれない感覚は、見ているこちらもすごいなと思える展覧会でした。日常生活が違う世界を表しているようでとても新鮮でした。
66	ニュース等で障害者の方の芸術に関する能力の高さを聞いていましたが、実際に見るのは初めてで驚きました。自分たちには見えない世界を見られているのだと思いました。これからも頑張って描いて下さい。
67	どの作品も生命力にあふれていると思いました。観ているととても元気になりました。来て良かったです。ありがとうございました。
68	我が子も障がいがあります。皆さんの作品を見させて頂き、勇気と希望をもらいました。
69	子どもと共に楽しめました。
70	感動しました。意識改革でした。
71	障害のある人の作品に触れて自分も何かを見つけ努力したいと考えることができました。
72	初めて来館しました。各々の表現があり、素敵だなと思いました。日常の中の紙の裏に掛かれたものなどもあり日常の中に取り組みされている姿が見え、その方の生き方を感じることができました。子どもの感性を大切に、将来に希望をもって生きていけるような関わりが出来ればと思いました。
73	どれもステキでグッズがあれば買いたくなるものもありました。色使い、見方が自分の中で変わりました。ありがとうございました。
74	展覧会で実際に自分の目で見える作品は迫力があり、1つ1つ見入ってしまう作品ばかりでした。事業所に通う利用児の方も「すごいです。」など作品を見て感想を言われました。みんなで生の芸術に触れ感じる時間となりました。
75	独特の見え方があるのか、その人にしか描けない作品ばかりで楽しかったです。この作品たちがポスターや、イラスト、物品などにいかされて作家さんたちの収入になるといいなと思います。明るい作品が多いのも素敵ですね。肯定的に生きていっしょる感じで。

	内容
76	一つ一つの作品に見入ってしまいました。とても楽しかったです。どの作品もその方の個性が出ているのだろうと感じました。作家さんのプロフィールも書いてあり、素敵だなと思いました。今日は来て良かったです。ありがとうございました。
77	初めて訪れました。様々な各度から見れる作品が多く、大変楽しめました。一つ一つの作品に対する作家さんの集中力には感服しました。また機会を見て訪れたいです。
78	熊本県民で世に知られていない方が、このように素晴らしい作品を創作しておられることに驚き、また喜びを感じています。今後の益々のご活躍をお祈りします。
79	Everything on earth have equal opportunities to enjoy art , and to express themselves through art.That's my feeling after the exhibition! 訳:地球上の全てのものは、芸術を楽しむ平等な機会を持ち、芸術を通して自分自身を表現している。それが展覧会を見た後に私が感じたことです!
80	作家さんの感性にいつも感動します。どんどん進化!?されておられ、素晴らしいですね! 毎年の展覧会を楽しみにしています。
81	自分を表現できる方法を見つけられた皆さんは本当に幸運だと思います。次回作、楽しみにしています。無理のない範囲で創作を続けていって下さい。
82	すごい! 高名な画家が修行の先に全ての色や線をはぶいた境地に至った時のような絵や抽象画のような絵、くすっと笑える絵、どの作品も言葉は不要。ひきつける魅力に満ちている。
83	それぞれの作品に表現力が異なり、作家さんの思いが伝わってくる。物や動物の1つをとっても捉え方が異なり、アピールしたポイントも違う中で作品を見ていく楽しさがありました。作家さんの得意としている描き方や表現の方法はとても勉強になりました。ありがとうございました。
84	障害って一言に言っても、それに負けないで”自分の世界”を表現する姿がとても素敵だなと思いました。これからも自分の表現したい世界、自分らしさを大切に活動を頑張つて、と言うのは少し違う気がしますが、毎日楽しく笑顔で作品作りが出来るように祈っています。沢山の素敵な作品を、そしてこうしてその作品に出会える機会をありがとうございます。
85	独りよがりでない特徴ある緻密さと配色が、コトバを介さない人と人との”感覚”のやりとりにつながっている感じがしました。
86	繊細な作品、ダイナミックな作品もいろいろあったが、どれも語り掛けてくれるようなそんな感じがした。芸術とは技法ではなく、自分をどう表現するのかということだと感動しました。
87	皆さんの作品から力を頂き、毎年楽しみにしています。たくま君の惑星や楽器、小さい時から好きだったこと、大事にしたいなと思います。たくま君の楽しい世界観は皆を幸せな気持ちにしてくれますね。これからも期待しています。
88	毎年参加させて頂いています。荒木さんの出身校職員谷口と申します。アーティストの皆様は経年成長や変化がしっかり見てとれるのが嬉しいです。沢山の皆様にご覧いただく機会を設けて頂き感謝しております。

	内容
89	どの作品も素晴らしくステキな時間を過ごすことができました。ありがとうございました。萩野さんの作品とてもかわいいです。特にしょうぼうしゃ気に入りました。
90	I thought all of the artists did on excellent job. The colors and designs were all wonderful. 訳: 私はすべてのアーティストが素晴らしい仕事をしたと思いました。色とデザインはすべて素晴らしかった。
91	どの作品もとても印象的でした。特に原色の色使い、デフォルメの斬新さなど、とても刺激的でした。次回もぜひ観に行きたいと思います。
92	感性のすばらしさに感動しました。その方の才能に気付く周囲の大人の感性もすばらしいと思います。
93	初めて足を運ばせて頂きました。1つの方法ではなく、1人1人が自分の表現方法で作製していて素晴らしかったです。どんどんこういった作品を見たいです。
94	とても真似できないくらいのごい作品ばかりでした。
95	かわいらしいものから壮大なものまで幅広い展示があつて見ていて飽きませんでした。また来たいです。
96	作る世界観が作家さんによってぶれていない感じや描き方を徹底しているもので、観ていて楽しかったです。これからも続けてほしいです。
97	どの作品も心動かされるものばかりで、素晴らしい作品です。凝った作品が、時間過程を振り返り、重みを感じます。また、色使い等の運び、構図と新しく感じます。
98	1つ1つの作品が驚くほど繊細で、また力強くとても引き込まれました。作家さんが描かれた作品の意味を考えると何時間も立ち止まってしまいそうでした。すばらしい作品をたくさん見せて下さりありがとうございました。
99	繊細なタッチ、カラフルな色使い、自由な発想とそれを表現できる凄さに感動しました。個人的に星空のペガサスがとても好きです。一つ一つ丁寧に、そして心から楽しんで制作している姿が想像できました。熊本にこんなに沢山の作家さん方がいらっしやったということも知れた、とても良い機会となりました。
100	息をひそめる。生きをす一つと吐く。息遣いのアートだと思いました。
101	障がい者の作品が生き生きとしていた。日頃の生活が反映されていると思います。周りの人たちの支えがあるからと思います。
102	昨年も来ました。今年も楽しみにして来ましたが、素晴らしい作品に、鳥肌の立つ思いです。これからも良い作品を作られるのを楽しみにしていますよ。元気で、又来年会いたいですネ!!
103	Colourful pictures make me left energetic nice drawing and art pieces. 訳: カラフルな作品は、私をエネルギーに満ちた表現や芸術作品の一部にしました。
104	作家の「生」な感覚が観る者にも感じ、動かされる様でした。各人の意図よりも受け取ったものを表現しただけの「強さ」を感じました。

	内容
105	Appreciate to organizer to hold exhibition for that people who we think are "abnormal" however I perceive them to be talented create artist. 訳: 私たちが「アブノーマル」と思う人々のために展覧会を開催している運営者に感謝申し上げます。しかしながら、私は彼らが才能のあるアーティストであると感じています。
106	細かい作業に感心しました。心のこもった作品ばかりで感想です。継続する力！みならっていきたいです。元気で生きましょう！
107	それぞれが大変個性的で、芸術的な視点からも十分楽しませていただきました。障害者の制作ということを忘れてしまいました。制作をサポートされる保護者や施設の皆様に感謝します。
108	Lot's of Fun! 訳: とても楽しい
109	初めて見せてもらいましたが、私は甥の子(30才)で発達障害の子がいて、引きこもりです。仲間が出来ない様ですが、一緒に創作活動をしたらよいのではないかと思います。多分本人が拒否するでしょう。
110	この会場を山下清が見たらジェラシーかも。
111	すばらしい。とても感動しました。特別な才能を持っている方たちなどを改めて思いました。又、家族の支えスタッフの指導も感動です。自分の生活も考え直すきっかけになりそうです。
112	心で描く作品にはとても心に響くものがあるとつくづく1つ1つの作品を見て感じました。日常で何かここまで没頭し、気持ちを注げるものが少なくなってきた自分の生活をまっさらなものにし、何か新しい事にチャレンジしてみようかなと思えるひとときでした。自由に自己表現できる術って身近なところにあるのだなと励みになりました。
113	一生懸命さが伝わった作品に感動しました。評価を期待することなく作られた素朴な作品はすばらしい。
114	みなさん個性あふれる豊かな心を持つ人として生きるpowerが感じられ感心しました。私もこれからぼちぼちがんばります。
115	どの作品も本当にステキでした。みてるホッとする作品、クスッと笑えるかわいい作品たち。作家さん方が1つ1つ1筆1筆で丁寧に描き上げてると思うと感動でした。
116	「生の芸術」という言葉がぴったりとくる、生きるパワーやエネルギーに満ち溢れ、またそのエネルギーが満ち足り、引いたりしている様子もうかがえる。人間らしい作品をたくさん見せて下さってありがとうございました。年2~3回観たいなと思いました。あと、私も頑張ってみよう！という気持ちに少しなれました。
117	皆さんの自由な発想と人の評価を気にしない素直な表現に感動しました。技術は違えど各々の絵と作品がとても豊かで観ていて心が温かくなりました。ありがとうございました。
118	1つと同じような作品がなく、個性的な作品ばかりで圧倒されました。作品に対する作家さんの真っすぐな力がみなぎっています。私は驚きと力をいただきました。次回も楽しみにしています。

	内容
119	作品はさまざまながら「衝動」というものが、にじんできると、きっとそれが絵、作品たちの魂なんだろうと感じました。情熱とも言えるのかな。作者の手を離れて作品そのものが息をしているようなすごみがありました。とても素敵でした。また新たな作品も拝見したいです。
120	どの作品も緻密でかつインパクトの大きなものばかりで圧倒されます。作家の方々の日常がうかがえるものも多く、親近感も湧き、それでいて美術作品としても十分鑑賞を楽しめるレベルの高い美術展だと感じました。
121	実際に描いてらっしゃる姿を見ることができて良かったです。原画の販売をして欲しいです。
122	Drawing is very great and help them share the inside world thank you ,for everything. 訳：作品は非常に素晴らしく、彼らが内部の世界を分かち合う力になっています。すべてにありがとう。
123	名古屋に住んでいた時に、自閉症の方たちの作品の色の豊かさに感動しましたが、熊本の方たちは発想や表現も個性的で感動しました。
124	美しい作品を拝見させて頂き、ありがとうございました。今、障害をもつ子ども達の療育にたずさわっています。子ども達の可能性を引き出せるといいなと思いました。
125	絵と工芸だけでなく、織や書など他分野も展示できればもっとにぎやかになり、深まると思います。毎年同じでなく、違う分野のオールブリュットもしてもいいのでは？
126	解説の中にあつた「生そのものの熱量」をどの作品にも感じました。表現したいというエネルギーは全ての人間が持って生まれたものであり、多くの人は社会のいろんな束縛でそれが失われている中で、会場の作家の皆さんはそんな束縛から全く自由に表現の翼を広げていることに感動しました。
127	サブタイトルにあるように”誰に教わった訳でもない”独創性の溢れる作品ばかりで深く感銘を受けた。
128	我が子も障がいがあり、日々活動の中での制作物を保管してます。その人、一人ひとりの個性もあり、色々な形の表現方法があつて素晴らしいですね。いつか子どもも大きな制作が出来るといいなと思います。
129	友人と花火大会に行き、今日はフラッと熊本城へ立ち寄りしました。美術館にもフラッと立ち寄りしましたが、感動致しました。来た事に感謝です。陰ながら応援させていただきます。(器用さに圧倒されました)
130	熊本に素晴らしい芸術家がたくさんいることに感動した
131	ArtBrut初めて知りました。才能を発見し、かいかされるシステムが充実されるといいと思いました。
132	もっとたくさんのおアートを見たい。2016～2018年度版の作品も見たい。
133	沢山のステキな作品に感動しました。毎回展覧会に足を運んでいますが、作家の方々、個性あふれる絵に日常とちがうときが流れて安らげます。ありがとうございました。これからも応援しております。

	内容
134	魂が込められた作品からは毎回体中の細胞に純粋なエネルギーを流してくれます。よく見ると作家お一人お一人のこだわりが気付き、再び喜びと楽しさを与えてくれます。このような生の芸術に触れる機会があり、幸せです。ありがとう!!
135	Your native.wishing,vivid. I thought my kids love. He is not frishorted . Usually he is wearing there is a link to him. 訳: 自然体、願い、鮮やかさ。私は子供たちが大好きだと思った。彼は気が短くない。普通に彼はつながりを持っている。
136	絵から伝わってくる思いや気持ちが自分の心を揺さぶられ全てにおいてアートだと感じた。それぞれがもっている力や能力が見ていて楽しめました。色分けや筆圧、紙の使い方、どれも勉強させて頂くことができ、すごく満足しています。またこのような展覧会が開かれた際は参加させて頂きます。
137	自分には思いつかないような作品ばかりでとても感動しました。芸術作品を通して人々を幸せにできるということを改めて感じさせて頂きました。作家の皆様、これからも素敵なお作品で多くの人を笑顔にしてください。素晴らしい作品見させて頂き、ありがとうございました。
138	色々な個性が出ている作品が見られた。プロに近い方もいらっやって驚きました。音楽が心地よく流れていて楽しく鑑賞出来ました。
139	まさに”生の芸術”といったところ、上手、下手関係なく個人の思うままに創作されているためか、見る者に正直さや、優しさを感じさせてくれる。押しつけがましくない世界。
140	文句なく面白い。入場料もらっていいのでは？数点は県立美術館買い上げるべき。常設展示に値する。

	内容
1	作者の写真入りで良く伝わりました
2	人それぞれの作品がありおもしろく、美しかった
3	障がい者の方々の可能性を改めて知ることができて力を貰いました
4	皆独創的なものばかりで面白かったです
5	個性あふれる作品で素晴らしいです
6	ステキな空間に癒されます
7	個性あふれる作品を見れてよかった
8	年齢層や作風が様々で楽しめました
9	遠くへ行くことなくみられて良かった
10	それぞれ特徴があって楽しかったです
11	芸術的で素敵だと思った
12	とても真似できないような作品ばかりで感動しました
13	普段なかなか見られないものを見ることができた
14	クオリティも量も問題なく満足できた
15	全ての作品が見ごたえあり良かった
16	どの作品も驚きをもってみるように素晴らしい
17	感動！！の一言です。才能あふれる作品でした
18	レベルの高い素晴らしい作品ばかり。驚くばかりでした
19	魅力的な作品ばかりで見入ってしまいました
20	色々な作品があり、かわいいものがたくさんあった
21	それぞれの方の表現を多くの方に知ってもらえるので。障害がある方の理解が進むと思います
22	より熟練した作品が多く見ごたえがあった
23	すべてすばらしい！！メッセージプロフィールも私たちが学び、気付かされた
24	時々美術館に行きますが出会うことのない作品ばかりで感動です
25	いろんな世界を見ることができて、想像は無限だなと感じました
26	本当に生きた芸術、感動します

	内容
27	細かい作業が良く出来ていました
28	多くの方の作品を見ることができる
29	アールブリュットの作品は何度見ても、理由なく心が躍るので
30	すばらしい！！の言葉では言い尽くせない感動を味わわせてもらいました
31	どれもまねできないようななにかがあってすごいなあと思いました
32	ステキな作品がたくさんあったから
33	どれも面白く驚くものばかりで楽しめました
34	何をイメージして描かれたものなのかが見かたによっていろいろ考えられるところがどれも良かった
35	はじめてお伺いしました。感動しました。スタッフの方にも感心しました
36	型にとらわれない作品など支援に対する職員の心構えかと思います
37	部屋に入ってこられた方の第一声「マーステキ！！」本当に素敵です。「菊池広報で見てきました」という女性もおられました。
38	「個性」そのものを、作品を通して肌で感じることができ、とても楽しませていただきました。ありがとうございました
39	どれだけの時間を掛けたらこんな作品を作ることができるんだろうと考えさせられる作品ばかりで非常に満足している
40	全作品にそれぞれいいところが多数ありました。紙が糸のような切込みにも驚きました。作品の展示場所があり、皆様の張り合いが出来るのではないかと思います。
41	普段観られないものばかりで楽しかったです
42	紙を細かく切るだけでも素晴らしい作品になる、点を打つだけでもステキな作品になる、本当にすごいです！個性豊かな発想、誰にも真似できない作家さん
43	なかなか出かけて見に行けないので近くで見られてよかった。広報誌？でPRを見たが、サニーサイド開催と記されていなかったようだ。もっと地元の方にも見に来て欲しい。
44	細かく丁寧な作品が多く、色使いもしろうとの私でさえすばらしいと思えるものばかりでした。
45	知ることができて良かった。知らなかったら損するくらい！！
46	色の使い方など独特で芸術的だなと思った。どれもすごい作品だと感じた
47	個性豊かに様々なものが表現されており、見ていて飽きません。もっともっと多くの方に作品と触れ合って欲しいと思います。これからも皆様の活躍を期待しています。
48	初めてきましたが、来てよかった、また来たいと思います。
49	もっと面白い展示方法がありそうな気がします
50	皆さんの笑顔が浮かびました！これからも…また来年見に来ます

	内容
1	日頃の私共には見られないような色彩感覚と熱中性(意欲)に感動しました。
2	初めての作品で感動しました。一人一人の個性が出ている作品でした。これからも頑張っ て楽しみながら作品を作ってください。
3	どれも素晴らしい作品を見せて頂きました。ありがとうございました。目にも心にもうたれる ものがありました。継続は大変だと思いますが、また素晴らしいものを見せて下さい。
4	なかなか美術館に行くことが無いので、とってもいい機会となりました。一人一人が一生 懸命作られた作品がすごく心にしみました。
5	作家の新作は数回、別会場で拝見しました。会場が異なるごとに雰囲気が変わり、毎回 新たな発見があり、とても新鮮でした。
6	どの作品も相当な想いのこもった力作揃いで、もっと多くの方々に見て頂ければ良いなと 思いました。
7	皆様の作品に感動しました。それぞれの人々の見方、感じ方がわかる。又、個人の特性 を生かした作品であると思います。 ・障害者家族だけでなく、皆様に見て頂きたいなあと思います。
8	自己表現や感性の豊かさが表現された作品ばかりで、観に来て良かったです。自分の 子供も言葉が出ないけど、何か自分の心を表現できる事ができたら・・・と思いながら拝 見しました。
9	とても素晴らしい作品ばかりで感動しました。純粋な心で創られたものばかりで汚れた人 間社会に育っている私らにとっては突き刺さるものがあります。また、作品のコメントを書 かれた方の見事な説明にも驚きました。
10	改めて才能と努力の結晶を感じました。常人いじょうの集中力と努力される力、繊細さに 感銘を受けました。幸あれ!!
11	個性あふれる作品で、線や文字、絵を一生懸命描かれている姿が浮かんできました。 又、どの作品も心にジーンとくる感動をもらいました。
12	ずっと見ていたいと思うような素晴らしい作品ばかりでした。改めて世界は色々な見方が あるんだなと感じました。
13	一人一人個性あふれる作品にふれ、感動しました。色使いがとてもきれいでちぎり絵が 細かく素晴らしかったです。見終わって「心」がホツとし、自分自身おだやかな感情になり ました。
14	初めてアール・ブリュットを観させて頂きました。どれもすばらしく感動しました。お一人ず つの写真とメッセージ(説明)があつて、より身近に感じながら作品をみる事が出来まし た。今後も、このような機会があれば是非みたいです。友人、知人にもSNSでアップしまし た。
15	みんな良い作品で感心(動)しました。それぞれの個性があり、心の豊かさを感じました。
16	見れば見るほど、目をひかれる作品ばかりだった。一人一人の個性が出ていて大変楽し かった。
17	素直に感動しました。かわいい色使いや配置に驚きと感心しました。素晴らしかったで す。ありがとうございました。おじさんのTシャツ欲しいです!!
18	「有名な画家が描いた！」と言われれば納得してしまいう程の作品もあり、驚きました。
19	気の遠くなりそうな作業を美しく表現できる素晴らしい能力を持った人がいることに感動し ました。それぞれの能力をのばして下さる人々がいることにも感動です。是非続けてほし いです。

9. 感想から見えてくるもの（寄稿）

アール・ブリュットは魔法の鏡か

アール・ブリュット パートナーズ熊本 副会長 安達憲政

心を揺さぶられると、人は言葉を発してしまうものらしい。「アール・ブリュット展覧会 vol.5」来場者 2025 人のうち 748 人が何らかのメッセージを残していた。特別なメッセージ性を持たないはずなのに、なぜ作品の前に立つと何かを言いたくなるのか。言葉を残していない人もまた、作品に問いかけ、同時に自らの心の中をのぞき込んでいたに違いない。アートはそんな魔力を持っている。

「鏡よ鏡、この世で一番…」と問いかけるのは白雪姫の継母だったか。目の前に立つ人を映していた鏡は、やがてそこにいない女性を映すようになる。あるがままの真実を告げる魔法の鏡。

アンケートには「自由」「温かい」「繊細」「個性」「純粹」「鮮やか」といった言葉が並ぶ。そして「枠に囚われていた」「穏やかな気持ちになった」「元気をもらった」など、作品と向かい合うことで見えてきた自らの心境も綴られている。アール・ブリュット作品もまた魔法の鏡なのだろう。

ただ、私たちは“聞こえないメッセージ”と“映らない姿”にも心しておくべきだろう。フランスの哲学者・芸術史家ミシェル・テヴォーは「通常の商品から遠ざけられることによって、かえって特異な仕方での尊敬や過大評価の対象となった」（「誤解としての芸術」）と指摘している。公立美術館という“権威”ある空間と制作者の物語性が、鏡に映る姿を歪めている恐れがあるからだ。

最後に気になるメッセージをひとつ。「純粹だからここまで描けるのかなと思いました。ただ、作家の障害に触れる必要があるのだろうか」と疑問も感じました」

衝動の理由

熊本日日新聞社デジタル編集部 次長 岩下勉

2012年8月、歴史情緒ある山鹿市の豊前街道沿いの旧酒蔵で、地元の「松本寛庸さん」という知らない名前の作家の作品展を初めて取材した。実を言うと、訪れたきっかけは、同じ会場で開かれていた著名な絵本作家の原画展取材の「ついで」ぐらいの気持ちだった。

土壁の薄暗い会場には40点以上がライトアップされ、中央に2点を超す3枚組の大作が台に寝かされた状態で飾られていた。主に色鉛筆で描いた作品は、驚くほど緻密で鮮やかで独創的。松本さんのお母さんから丁寧な説明を受け、「アール・ブリュット」という言葉も初めて覚えた。

新聞記者は取材中に「これは書かなきゃ」という衝動に駆られる時がある。「松本寛庸」「アール・ブリュット」も、その衝動が沸いた。それ以降、松本さん、藤岡祐機さん、荒木聖憲さんをはじめ、多くの作家たちやアール・ブリュットの活動取材し、積極的に記事にしてきた。2014年の初回の展覧会からは、ほぼ全員の作者近影や作品の撮影、プロフィールの紹介などを個人的に手伝わせてもらっている。

私の出発点となった松本さんの作品展での衝動の理由は何だったのか。その答えを、5回目となる展覧会のアンケートの中に探した。

「何でしょう。不思議な感覚になっています」

「ミラクルでミステリー」

「元気をもらう作品」

「感性、表現力にシットしてしまいます」

「意識改革でした」

「言葉は不要」

「魂、が伝わってくる」

うん、うんとうなずきながら700人以上のアンケートを読み進めた。そして多くの人が用いていた言葉が、シンプルだけど一番しっくりきた。それは「すごい」。他の美術展を見に行っても、あまり頭に浮かばない感情かもしれない。「すごい」作家のみなさんの展覧会にかかわらせてもらっていることを、あらためて感謝したい。

10. アール・ブリュット パートナース熊本・(福)愛隣園 事業事務局

アール・ブリュット パートナース熊本 理事・役員名簿

	役職名	氏名	所属団体及び役職
1	会長	西島 喜義	熊本市 元副市長 熊本市シルバー人材センター 理事長
2	副会長	安達 憲政	熊本日日新聞社 前編集員 熊本大学文学部非常勤講師
3	副会長	林田 直志	公益財団法人 永青文庫 常務理事
4	理事	栗崎 英雄	熊本県知的障がい者施設協会 前会長 (第二つつじヶ丘学園)
5	理事	日隈 辰彦	熊本障害フォーラム (KDF) 事務局長 (ヒューマンネットワーク熊本)
6	理事 事務局長	三浦 貴子	熊本県身体障害児者施設協議会 会長 (愛隣館)
7	監事	川村 隼秋	熊本県手をつなぐ育成会 会長
8	監事	塘林 敬規	熊本市社会福祉施設連合会 事務局長 (大江学園)
9	アドバイザー	藏座 江美	一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事 元 熊本市現代美術館 主任学芸員
10	コーディネーター	岩下 勉	熊本日日新聞社デジタル編集部 次長
11	コーディネーター	西 恵美	熊本市手をつなぐ育成会 会長
12	コーディネーター	土井 章平	野々島学園 施設長

社会福祉法人愛隣園 事業事務局

	役割名	氏名	所属
1	理事長	三浦 一水	社会福祉法人愛隣園 理事長
2	事務局長	三浦 貴子	社会福祉法人愛隣園 障害者支援施設愛隣館 館長
3	事務局	田中 裕一	障害者支援施設愛隣館 統括部長
4	事務局	納富 久	障害者支援施設愛隣館 総務部
5	事務局	堀田 直美	障害者支援施設愛隣館 総務部副主任
6	事務局	久武 康博	障害者支援施設愛隣館 生活サービス部
7	事務局	松本 薫	障害者支援施設愛隣館 児童通所支援事業所
8	事務局	富田 芳博	障害者支援施設愛隣館 総務部主任
9	事務局	福山 清一	障害者支援施設愛隣館 生活サービス部

令和元年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業
(熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業) 報告書

(企画・編集)

社会福祉法人 愛隣園 障害者支援施設 愛隣館
《アール・ブリュット パートナーズ熊本》

〒861-0551 熊本県山鹿市津留 2022 <http://aileans.com/saca/>
Tel:0968-43-2771 Fax:0968-43-2793 Mail:ailinkan@magma.jp

(企画・構成)

三浦貴子

(編集・校正)

納富久・富田芳博

(印刷・製本)

株式会社トライ

(助成)

令和元年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業
(熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業)